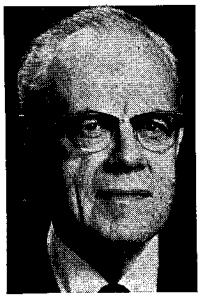
聖徒の道
1970年11月20日発行（毎月1回20日発行）第14巻 第11号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1970 11



心の糧

十二使徒評議員
リチャード・L・エバンズ

誘惑はどこにもある。悪を行なう機会，善を行なう機会もどこにでもあるが，我々は誘惑を試みてはならない。ある気まぐれな傍観者が言ったように「ある人々は誘惑を逃がれても，新たな誘惑への手がかりを残しているものだ。」もし悪をしたくなければ，心にその思いを抱くことさえしてはならない。もし誘惑につきまとわれたくなければ，あたかもそれに興味あるごとくにふるまってはならない。断崖に近づくことのない人が決して断崖から落ちたためしはない。

また，ここで我々の天父は理論家ではないと申しあげておこう。理論により神の創造がなされてはいない。春は理論によってはめぐって来ない。種は理論により成長しない。物質的，道徳的，霊的律法はなおも存在し，戒めもまた有効である。だれもそれを撤回したものはない。だれも，それらを与えた神以外に，撤回する権利を持っていない。

天父が我々に勧告や戒めを与えたもう時，我々はそれが非常に大切なものであることを確信できる。天父が我々に何かを語りたもうなら，我々はそれを信じた方がよい。

もし我々が一つの道に従って生きるなら，一つの結果を得，別の道に従うなら，別の結果を得るのである。

私の愛する若き友であるあなたがたに祝福のあらんことを，噂によって生きてはいけない。すでに見い出されているものを探してあちこちとあてもなくさ迷ってはいけない。現代の詭弁と誘惑にまどわされてはいけない。神が与えたもう勧告と戒めに従い，思慮深く，祈りに満ちた，清い生活により人にもたらされる平安と幸福を見出しなさい。

——もくじ——

予言者のことば
天父の子供たちすべてに……大管長　ジョセフ・フィールディング・スミス… 285
聖　会……副編集長　ジェイ・M・トッド… 287
統計記録…… 289
大会説教
神の存在……ハワード・W・ハンター… 290
弱きを強きへ……ハートマン・レクター・Jr… 292
正直は最良の方策……セオドア・M・バートン… 294
もし愛がなければ……セオドア・M・バートン… 296
勇気ある者となろう……N・エルドン・タナー… 297
管理監督のページ
什分の一……ジョン・H・バンディンバーグ… 299
「みたま」は雄弁に語る……ボイド・K・パッカー… 300
大会説教
たかが教師じゃないか……トーマス・S・マンソン… 303
聖餐の聖句…… 305
サラ・M・タナー
家庭，家族，教会への献身……編集員　エリノア・ノールズ… 306
大会説教
救いと家族……ブルース・R・マッコンキー… 308
ローカルニュース…… 310
日本西部伝道部長だより……裏表紙

子供のページ

ちいさすぎるテリーとしんがっきのだい一日め……38
羊飼いの少年，ダビデ……ドロシー・O・バーカー…40

11月のこよみ

1日
ジョン・テイラー　第3代大管長生まる。
イギリス　1808

13日
ジョセフ・F・スミス　第6代大管長生まる。
ミズーリ州，ファーウェスト.
1838

17日
オークランド神殿(カリフォルニヤ)献堂さる。
デビド・O・マッケイ大管長
1964

21日
近代最初の死者のためのバプテスマ行わる。
ノーブー神殿　1841

22日
ヒーバー・J・グラント　第7代大管長生まる。
ソルトレーク　1856

23日
ヒーバー・J・グラント　第7代大管長として支持される。
1856

27日
ハワイ神殿献堂さる。
ヒーバー・J・グラント大管長
1919

28日
YWMIA　組織さる。
ソルトレーク　1869

今月の表紙

今月の表紙はトム・ラベル画伯の絵でバプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーにアロン神権を授けるところを描いている。画伯は教会歴史のこの重大な出来事を照らして注意深く考証し，また80年以上たったサスケハナ川の土手の写真をも調べた。この絵はミズーリ州インデペンデンスの新しい訪問者センター内に他の絵と共に展示されている。

<予言者のことば>

天父の子供たちすべてに

大管長
ジョセフ・フィールディング・スミス

愛する兄弟姉妹，私は，主が私と，また各国の忠実なる会員と地に住むあらゆる子供たちに与えたもうた祝福の数々に，表わしがたい感謝の気持を抱いている。

福音を信じ，その律法に従うすべての人々の救いのために，主がこの末日に永遠の福音を回復したもうたことを，私は日夜主に感謝している。

主が末日の王国の諸業務を支配し，指示させるべく召したもうた善良にして，偉大なる人々の生活と働きに感謝する次第である。

我々がデビド・O・マッケイ大管長をいかに懐しく思い起こしているかを特に申しあげたい。周知の通り，彼は偉大な霊の力を有し，生まれついての指導者であった。また教会員に愛され，世の人々に称えられていた。人々は日のあらん限り立ちあがって彼の名をさいわいなる者ととなえるであろう。（詩篇72：17，箴言31：28参照）

マッケイ大管長は我々の伝道が世のすべての人々のためにあること，すなわち天父の子供たちすべての平安と希望と幸福と今も永世にもわたる救いのためにあることを，しばしば思い起こさせてくれた。

彼はハワイ，南太平洋，ラテンアメリカ，アメリカインディアンにいたるまで，多くの国々の，多くの人々に広く教育の機会を与えた。

彼はそのきわだった広範囲にわたる管理の下に，可能な限り世のすべての人々を祝福しようと努めたのである。

愛する兄弟姉妹，主がマッケイ大管長の広く，はるかかなたを見通す管理の働きを喜びたもうたことを私は知っており，教会員が引き続き世のいたるところに住む天父の子供たちすべてに心を配り，彼らを祝福するよう心から強調したいと思う。

我々は一つの民として他の信仰を持つ人々と共に理解を増し，親しい間柄にあることをいかに喜んでいるかを申しあげたい。私はこのような善意の間柄とキリスト教徒としての友情が増して，それに触れるすべての人々の生活を祝福することを信じ，祈るものである。

もしすべての人々が自分たちは何物であるかを悟り，彼らが神のみもとから来たこととそのゆずりの一部である無限の潜在力に気づいたならば，彼らはすべての生き方を変え，地上に平和をもたらす互いの親切と親しみの情を心に抱くであろう。

我々は，人が高貴にして聖なる起源を有するものであることを信じて疑わない。我々の信仰は神が我々の父であり，我々は天父の子供たちであり，すべての人間は同じ永遠の家族における兄弟姉妹であるという事実にもとずいている。

神の家族として，我々はこの地の基いがすえられる前に神と共に住んだ。そして神は御自身の持ちたもう性質，属性をもたせ，神のかたちに，神にかたどって人を創造された。（創世１：26参照）

また人の尊厳と行く末に対し我々が信ずるところは，我々の神学と生活方法の両面で重要な部分を占めている。次にあげる「第一にして大いなる戒め」はまさしく主の教えの基礎となるものである。すなわち「『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ』。第二もこれと同様である。『自分を愛するように，あなたの隣り人を愛せよ』。」（マタイ22：37—39参照）

神は我々の天父なので，我々は天父を愛し，天父に仕え，天父の家族にふさわしいものになりたいという生来の望みをもっている。我々は，主が我々にさせたいと望んでおられることをなし，主の戒めを守り，福音の標準に調和した生活をするなど，まことの礼拝に欠くことのできない事柄をなす責任を感じている。

すべての人間は兄弟なので，我々は彼らを愛し，祝福し，友情を分かち合いたいと望んでおり，このことをも，我々はまことの礼拝の重要な部分として受け入れている。

このようにして我々が教会でなすあらゆることは，神を愛し礼拝し，はらからに奉仕するという神の律法に集約されている。

教会としてまた一個の民として，我々が天父の子供たちすべての幸福に深い関心を寄せるのは当然である。我々は我々自身と同様に彼らの物質的，霊的福祉を求めている。我々は自身のために祈ると同様に彼らのために祈り，我々の良い行ないを見て，彼らが天にいます我々の父をあがめるように生活しようと努めている。（マタイ５：16参照）

教会をあげて，我々は有益で健全なあらゆる文化的計画や事業を推進している。人類の祝福と改善に寄与できるのは喜ばしいことである。

信仰箇条の一つに次のような宣言がある。

「われらは，正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行なうべきを信ず。……もし何にても，徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいは褒むべきことあらば，われらはこれをたずねもとむるものなり。」（第13条）

また主が与えたもうた啓示の一つで，主は勧告しておられる。「……人は努めて善き業に従い，多くの事をその自由意志によりて為し，多くの正しき事を為し遂げよ。」（教義と聖約58：27）

我々は我々の社会に今まであり，また現にある社会的，文化的傾向のいくつかを好ましく思っていない。道徳的な事柄に関するあらゆる決定は，旧約聖書をはじめとして，それに続く神権時代に神が与えたもうた啓示の書物に含む聖句の標準に合わせてなされねばならないことを我々は固く信じている。

これらの神の標準の一つに「人を徳に導かざるものは，神によるにあらず暗黒なり」（教義と聖約50：23）とある。一つの民として我々は自身と全人類のために，人を益し，啓発し高め，尊くする事柄のみを探し求めている。

若人はこの高度に専門化した時代にあって自立できるに充分な教育を受け，また同胞に仕え，あらゆる面で将来にも教育を続けて受けることが大切であると我々は思っている。

しかしながら，我々は数々の大学構内でしばしば見られるような分裂や不一致の精神には，いささかの同情も寄せていない。我が教会の若人には，これらの無軌道な行動を避けて，法と秩序を守り，慎重な行動を是非ともとってもらいたいのである。

すべての国の人々が，互いの信仰と礼拝の方式を尊重しあって，平和に生活し，またあらゆる人々に一致の精神と兄弟愛が満ちることこそ我々の願いであり，祈りである。

我々は，正しい生活をしたいと望む人々，また我々と同じ標準に固く従いたいと望む人々が大勢いることを知っている。

我々すべてが真の礼拝と一致の基いというこれらの偉大な目標に向う際に，人々が我々からキリスト教徒としての友情を受けとれるという希望と励みとを持つことを心から歓迎する。

我々はいたるところに住むすべての若人の霊的，道徳的福祉に大きな関心を抱いている。貞潔，純潔，高潔，罪からの自由などは，もし我々がその目的を充分に悟ることができるなら，我々の生き方の基いであり，またそうでなければならない。

我々は数多くの父母が教訓と模範によって純潔を教え，そのあらゆる面で子供たちの相談にのるようにと願っている。

両親は自身の生活に正しい模範を示し，子供たちを集めて家庭の夕べその他の機会に福音を教えていただきたい。

我々は教会の若い世代を信頼し，彼らが世の流行や習慣に従わないように，また反抗の心を持たず，真理と徳の道をすてることがないようにと切に願っている。

我々は彼らが心底から善良であることを信じ，彼らが義の柱となり，信仰と能力を培い教会の業をおし進めていくことを期待している。

我が教会の若人は天父の子供たちの中でも最も祝福され恵まれた人々である。彼らは天の高貴なるもの，聖なる行く末をもつ選ばれた種族である。（Ⅰ ペテロ２：９参照）彼らの霊は，福音が地上にあるこの時代，すなわち主が末日の大いなる業をおし進めるためのすぐれた僕を必要とするこの時代に出で来るように天に貯えておかれたのである。

主があなたがたシオンの若人を祝福し，すべての聖約と義務に忠実ならしめ，光と真理の道に歩ませ，来たるべき大いなる働きに備えさせたもうよう祈る。

現在ほどに，すべての人々が恵み深き愛の神の祝福を必要とした時代はいまだかつてなかった。

そして今や天父なる神が天の窓を開いて，地上にあまねく子供たちの上に物心両面で大いなる永遠の祝福を注ぎたもうよう祈る。

人々が世の道を棄て彼らの造り主なる神に立ちかえるように，彼らが心を開いて御子の福音に見られる真理と光の言葉を受け入れるように，地に平和，国々に兄弟愛，人々の心に愛があるように。

天父なる神がいずこに住む神の民にも，また彼らの神として主を受け入れ，御子の御名により神に仕えんとするすべての人々にも，愛と恵みをたれたもうよう祈る。

すべての両親が子供たちの光となり，真理と義の道に子供たちを導き，このようにして子供たちが両親の教えにこたえ，世の悪から守られるよう祈る。

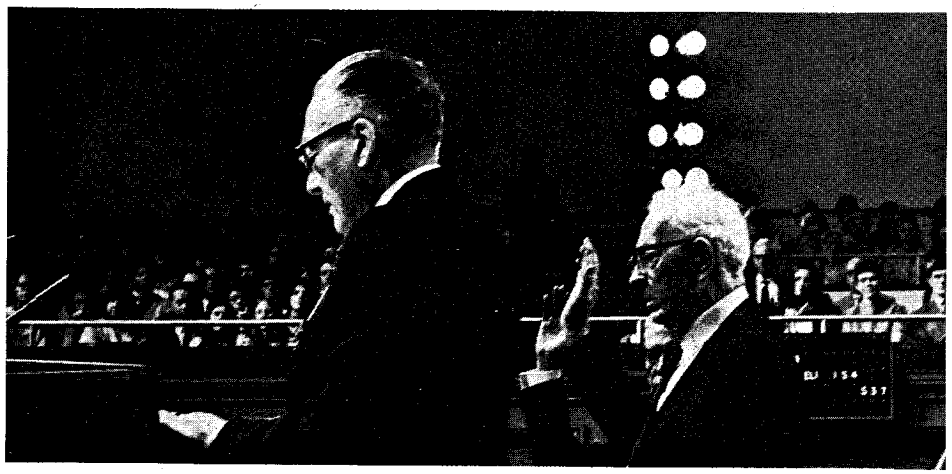
弱き人々，疲れ果てた人々のために，気苦労と悲しみの重荷を負う人々のために，また人生の嵐の中で慰めと助けを必要とする人々のために私は祈る。

主が，古えの聖徒に次のように言われた御子の約束により平安を下したもうように。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは，世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな。」（ヨハネ14：27）

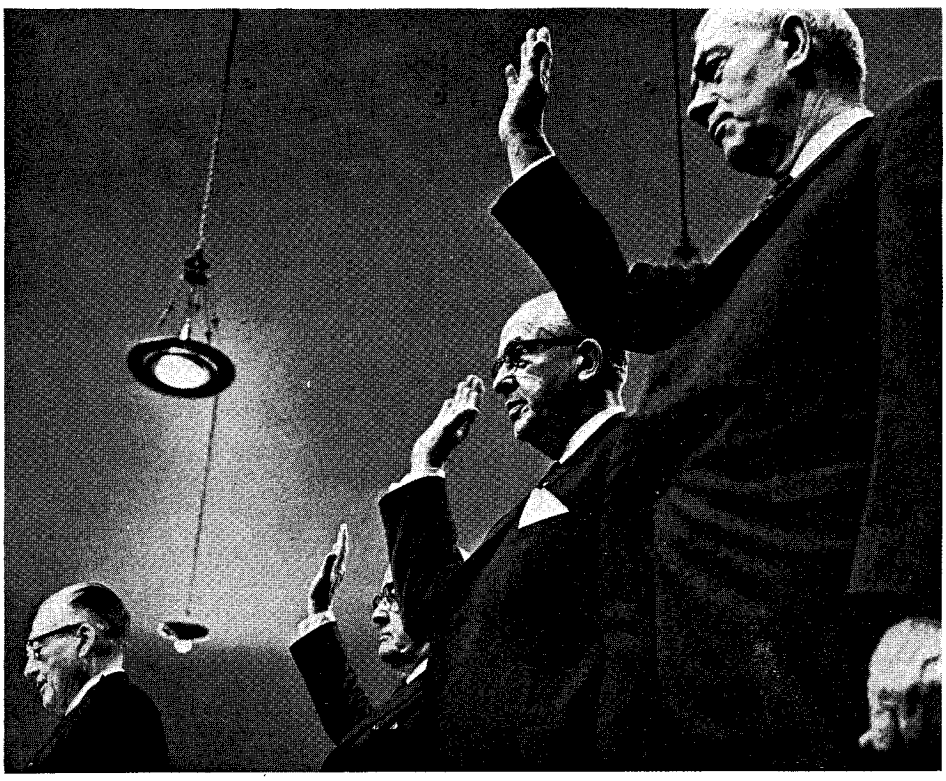
主が我々とすべての人々に，この生涯で受けられる完全なる祝福を下したまい，来るべき永遠の王国に我々を受け入れたもうよう，これらすべてをへりくだり，感謝をもって主イエス・キリストの御名により祈り奉る。　　アーメン

聖　会

副編集長
ジェイ・M・トッド



大　管　長　会



十二使徒評議員会

1970年4月6日，1830年に教会が組織されて140周年目に当るこの日に，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，聖会において予言者聖見者，啓示を受くる者，および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として支持された。

テンプルスクエアのタバナクルにおける第140回年次総大会の午前10時からの集会にほとんどあらゆるステーキ部，ワード部，伝道部を代表する聖徒たちが集った。これらの聖徒たちは教会における最もすばらしく，また霊感あふるる経験を味わうべく集ったのであった。すなわち，聖会において新大管長，大管長会，十二使徒評議員会，大祝福師を予言者，聖見者，啓示を受くる者として支持したのであった。

主は予言者ジョセフ・スミスに対するいくつかの啓示の中で，「汝らの聖会を招集すべし」（教義と聖約95：7，および88：70，109：6も参照）と指示されている。この挙手によって支持を表わす方法は1880年の総大会でジョン・テイラー大管長が支持された時以来用いられている（「教会歴史萃」ジョセフ・フィールディング・スミス著，P.589）。このような支持を求める集会は，約束と献身が表わされ，その場に出席したかあるいはテレビ・ラジオを通じて参加したかにかかわらずあふるるばかりのみたまに満たされる時である。

教会幹部を支持する場合は聖会が支持の場とされてきた。そこでは，神権政体の主たる評議員会および各神権定員会（タバナクルにおいて着席区域が割り当てられる）が起立し，各提議について個々に挙手による支持を表わし，次いで会衆が起立して，支持するので

ある。今回の聖会では支持に35分を要した。

大管長会の支持：

1．大管長会が起立し，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長が予言者，聖見者，啓示を受くる者および末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長であることを支持した。ハロルド・ビンガム・リー副管長が大管長会第一副管長であり，ナサン・エルドン・タナー副管長が大管長会第二副管長であることを支持した。そして大管長会は着席。

2．十二使徒評議員会が起立し，上記三つの提議を支持し，着席。

3．大祝福師を含む教会の祝福師が起立し，三つの提議を支持し，着席。

4．十二使徒評議員会補助，十二使徒評議員会地区代表，ステーキ部長会，高等評議員会，管理監督会，ワード部監督会を含む教会の大祭司が起立し，三つの提議を支持した後，着席。

5．七十人最高評議員会を含む教会の七十人が起立し，三つの提議を支持した後，着席。

6．教会の長老が起立し，三つの提議を支持し，着席。

7．教会のアロン神権者が起立し，三つの提議を支持し，着席。

8．これまで支持した人々を含む全会衆が起立し，三つの提議を支持した後，着席。

十二使徒評議員会会長，十二使徒評議会会長代理，十二使徒評議員会会員の支持：

1．大管長会が起立し，ハロルド・ビンガム・リーを十二使徒評議員会会長として，スペンサー・ウォーリン・キンボールを十二使評議員会会長代理として支持し，スペンサー・W・キンボール，エズラ・タフト・ベンソン，マーク・E・ピーターセン，デルバート・L・スティプレー，マリオン・G・ロムニー，リグランド・リチャーズ，リチャード・L・エバンズ，ヒュー・B・ブラウン，ハワード・W・ハンター，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカーを十二使徒評議員会会員として支持した。そして大管長会は着席。

2．十二使徒評議員会が起立し，二つの提議を支持した後，着席。同様の方法により，大管長会，祝福師，大祭司，七十人，長老，アロン神権者が支持した後，全会衆が起立し，上記の提議を支持した。

大祝福師の支持：

1．大管長会が起立し，エルドレッド・G・スミスを大祝福師として支持した後，着席。

2．大管長会と十二使徒評議員会の時と同様の方法により，十二使徒評議員会，祝福師，大祭司，七十人，長老，アロン神権者が支持し，その後全会衆がこの提議を支持した。

一　般　会　員

予言者，聖見者，啓示を受くる者の支持：

1．大管長会が起立し，大管長会，十二使徒，大祝福師が予言者，聖見者啓示を受くる者として支持した後，着席。

2．呼びあげられるに従って，上記の様式により，十二使徒評議員会，祝福師，大祭司，七十人，長老，アロン神権者が支持した後，全会衆が提議を支持した。

以上の支持手続きが終ると，その他の支持が通常の様式に従って行なわれた。全員が着席し，各提議に挙手による支持を行なった。通常の総大会の手続と同じように，ジョセフ・フィールディング・スミスを教会の信託保管人として，十二使徒評議員会，七十人最高評議員会，管理監督会，十二使徒評議員会補助，教会歴史記録者およびその補助，四つの神権中央委員会すなわち福祉，ホーム・ティーチング，伝道，系図の委員，教会教育委員会，教会財務委員会，タバナクル聖歌隊役員および扶助協会，デゼレト日曜学校協会，YMMIA，YWMIA，初等協会からなる補助組織中央管理会役員，会員を現在のままで支持した。その後，年次統計報告と教会財務委員会の報告があった。

アロン神権者

統計記録

1969年度

大管長会は，1969年度の終りにあたって次のような教会員に関する統計記録を発表した。

ステーキ部数	496
ワード部数	3,910
ステーキ部内　独立支部数	682
ステーキ部内　ワード部独立支部合計	4,592
伝道部数	88
伝道部内　支部数	2,016
教会員数	
ステーキ部	2,344,635
伝道部	462,821
合計	2,807,456
1969年度教会成長度	
ステーキ部，伝道部内幼児祝福数	62,113
ステーキ部，伝道部内子供のバプテスマ	54,606
ステーキ部，伝道部内求道者のバプテスマ	70,010
社会的統計　（ステーキ部からの1969年度の記録に基く）	
1,000人当り出生率	28.18
1,000人当り結婚率	16.67
1,000人当り死亡率	5.04
アロン神権者数	
執事	128,614
教師	91,603
祭司	138,571
アロン神権者総数	358,788
メルケゼデク神権者数	
長老	233,108
七十人	23,204
大祭司	78,973
メルケゼデク神権者総数	335,285
アロン神権，メルケゼデク神権者総数	694,073
（年度内増加数 33,183人）	
補助組織	
扶助協会（登録会員数）	325,042
日曜学校（平均出席数）	889,778
YMMIA（登録人数）	292,891
YWMIA（登録人数）	366,749
プライマリー（登録人数）	464,100
福祉計画	
年間被援助者数	96,429
雇用者数	8,814
労働奉仕日数累計	202,637
福祉操業日数累計	7,501
系図協会	
神殿儀式に備えてクリアされた名前の数	1,423,502

（当年度内で15ケ国においてマイクロフィルムに収録された系図記録の数を合計すると，20,841,930.48m の長さとなり，それはちょうど300ページの厚さの本で320万冊位に相当する。）

神殿	
現在，建てられている13の神殿の中で行われた儀式数	
生きている人	55,206
死者	7,958,003
儀式の総数	8,013,209
教会学校制度	
教会学校在籍者総数（神学，宗教講座を含む）	193,155

末日聖徒イエス・キリスト教会　第140回年次総会説教

十二使徒評議員
ハワード・W・ハンター長老

神の存在

世の美に囲まれた人生とは，何とすばらしいものであろうか。美は山に，森に湖にある。はてしなくうねり続ける海の波にも，羊毛を散らしたような雲のひろがる空にも，太陽の輝く中にも雨の中にも，朝，昼，晩にも美はある。

四季の移る中で，春には新しい生命の息吹に，夏には輝く太陽に美しさを見ている。色どりで装った秋は白の毛布におおわれた静かな冬に先立つ。美しさというものは，探しさえすればどこにでもある。

宇宙には正確な秩序があることを私達は知らされている。昼の後には夜が来る。波は上下を規則的に繰り返し，月の現われる周期は正確であり，自然に呼応して四季は移り変る。空の星は厳密な秩序に従っており，惑星とその衛星は厳密に太陽との関係の中で運行している。生物学者は動植物の生命に驚異と美を見出し，化学者は地球の元素に神秘を見ている。だが科学的な教育の有無にかかわらず，あらゆる人は自然を見て複雑ながらも正確さの存在する広大な宇宙に気づいている。

天地の現象を観察してみると，それは何か大きな原因があってその結果であるという結論に到達せざるを得ない。設計者がいなければ，設計は存在しないし，建築家がいなければ建物は存在するはずがない。あらゆる結果には，原因があるからである。宇宙のち密な秩序を治める手があるに違いない。至高者の存在を認めないわけにはいかないのではないだろうか。世の何百万という人々がこの変らぬ確信を持っている。

神が人を造りたもうたのだろうか，それとも人が神を造ったのだろうか。人々は多くの根本的な疑問に悩まされている。だが，それらの疑問は神が生きてましますか否かに集約されるはずである。この疑問の解決に，科学的探究に用いる方法を用いることはできない。物質的な領域でなく，霊的な領域の事柄を考えているのである。

神が生きてましますことを見出すには，神がそのために備えたもうた道を進まねばならない。その道は昇る道であり，信仰と努力を要し，決してなま易しい道ではない。このため，多くの人は，神が生きてましますことを証明する骨の折れる仕事に取り組もうとしないのである。そして，易きに陥り，神の存在を否定したり，懐疑主義者のあいまいな道を安直に歩んでいる。無神論者，邪教徒，自由思想家，懐疑論者，不可知論者がそれである。

主題を研究する場合のアプローチとしては，主題に関する歴史と事実を追求する方法をとるのが普通である。私達が歴史から始めて，最もよく知られている古代の記録に目を向けるならば，それには，「はじめに神は天と地とを創造された」（創世記１：１）と記されている。この言葉は創造についてのヘブライ人の信仰の基いになっている。すなわち地球は偶然にできたのでも，たまたまできたのでもなく，一定の目的のために至高者が意志を働かせて造りたもうたのである。

私達はこの創造に関する説明を盲目的に受け入れるべきであろうか。聖書の最初の五書の著者は創造主の業を目撃したわけではなく以下にあげるヘブル書の著者が記していると同じ確固たる信仰を持っていただけである。「さて，信仰とは，望んでいる事がらを確信し，まだ見ていない事実を確認することである」（ヘブル11：１）。信仰とは知識に至るまでの証拠なしにものごとを真実であると信じることであるとよく言われる。私達は次の教えに従いながら，探究し続けなければならない。すなわち，「求めよ，そうすれば，与えられるであろう。捜せ，そうすれば，見いだすであろう。門をたたけ，そうすれば，あけてもらえるであろう。すべて求める者は得，捜す者は見出し，門をたたく者はあけてもらえるからである。」（マタイ７：７～８）

神は天地を創造された後，私達の最初の両親であるアダムとイヴにエデンの園で語りかけられたことが旧約聖書に記されている。神は戒めを与え，言葉を交された。アダムはノアの父親までの８世代の子孫に，神より直接与えられた示現を教えたに違いない。ノアは神と直接言葉を交し，10世代の子孫に教えを与えた。神は自ら忠実な僕アブラハムに現れたまい，イサクやヤコブにも姿を現わされた。モーセはアブラハムの子孫の指導者となり，神に直接に親しく交わられたことは衆知の通りである。そしてその次第はモーセに続く全世代の人々に伝えられてきた。

新約聖書にも神が姿を現わしたもうたことが記されている。ヨハネがイエスにバプテスマを施した時，「示現がありまた天から声があって言った，『これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である』（マタイ３：17）。また変貌の山で，「輝く雲が彼らをおおい，そして雲の中から声がした，『これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である。これに聞け』弟子たちはこれを聞いて非常に恐れ顔を地に伏せた。」（マタイ17：５～６）

これは神が子らに度々現れたもうたことに関して新旧約聖書に記録されている一例にすぎない。西半球の聖典にもまた神との交通があったことが記されている。神がはじめより代々人々と交通を保っておられたという記述により，歴史は神が生きてましますことを実証している。

至高者の実在について歴史だけに証拠を頼る必要はない。論理的にも証明できる。それは古代の市場で使っていた論法で，三段論法の形式をとっている。すべて造られた物には造った人がいる。地球は創造された。ゆえに地球には創造主がいるはずである。ヘブル書をもう一度引用してみよう。著者は神が地球の創造主であることについてこのような言葉で述べている。「家はすべて，だれかによって造られるものであるが，すべてのものを造られたかたは，神である」。（ヘブル３：４）運行している宇宙とその美と驚異すべてが，偉大な創造主である神の実在を私達に教えようとしている。

ある学者は次のように述べている。「科学は人類のためにあらゆることをしてきたが，人類でしかできないことはなしえない。科学は教え得るが，人は自分でしか学べない。すなわち，学びということは個人が自分で努力

しなければならない過程であって，他人がそれを代ることはできない。いかなる人も他人に代って学ぶことはできないのである。一般的に言って，科学は神の存在を教えている。そうではないだろうか。いずれにしろ，人は皆，神が存在するかどうかという問題を抱えている。神は実在しないという無神論者の説を証明するものは何もない。無神論者は私達の天の父はいないと心から信じているのだろうが，それを確かに証明できるものはない。彼が知らないことを私達は知っている。なぜならば，自分達は知っていると積極的に証する人々がいるからである。」(故十二使徒評議員ジョセフ・F・メリル著「真理の探究者とモルモン教」P.104～105)

科学的な手段や近代の電子工学で神を見出すことはできないと言われている。しかしながら，真理を求める者は，因果関係をたどって行けば至高者の存在が証拠となるということを意識させる非常な力を見過してはならない。

人間は生来礼拝への欲求を持っている。昔神はイスラエルの民に対し次のように言われた。「わたしはあなたの神，主であって，あなたをエジプトの地，奴隷の家から導き出した者である。あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない。」(出エジプト20：2～3) 人は一方の神しか礼拝できないという大いなる真理を聖なる歴史全体を貫いている教えに見出すことができる。一方の神を礼拝するということは，人生において一つの絶大な忠誠を持つということである。もし一方の永遠の父なる神を意識しているとすれば，神のもとに一つの世界，一つの人類すなわち全人類が兄弟であることに気づくであろう。

何が人々を礼拝に駆り立てるのであろうか。人の心には，神との交わりを求める生来備えた何かがあるようである。ヨブ記には，こう記されている。「しかし人のうちには霊があり，全能者の霊感が人に悟りを与える」。(欽定訳ヨブ32：8) これは暗に人の創造をさしている。この霊によってヨブは悟りと論理を得，神の真理を識別できるようになり，神を知るようになったのである。

神に関する歴史的な証拠と神の存在についての論理に加えて，最も確かな知識は神よりの啓示によりもたらされる。初めより，また旧約，新約の時代を通じて，神は人に御自身を現わされた。アダムに始まり，ノアに至る各族長と神は言葉を交わされた。ノア以降，忠実な僕であったアブラハム，イサク，ヤコブ，モーセとキリストが教えと導きの業を始められるまでの予言者達に，神は御自身を現わされた。神はイエスのバプテスマの時と変貌の時に語りかけておられる。

神はバベルの塔の時代に旧世界を離れ西半球に渡った一団の指導者に御自身を現わされた。また，紀元前600年にはリーハイに語りかけ，リーハイと家族をアメリカ大陸へ導きたもうた。現在の神権時代に神は少年ジョセフ・スミスに姿を現わされ，ジョセフは永遠の父なる神と御子イエス・キリストを拝する特権に浴したのであった。

このように歴史を通じて，人は永遠の父なる神，御子イエス・キリスト，聖霊という神会を構成する方々にまみえてきたのである。キリスト教界はこの三方を三位一体であるとしているが，三方は三人の別個のお方である。これについては，イエスがバプテスマを受けられた時，御父の声が聞こえ，聖霊が降ったということで証明される。

代価を支払わなければ，価値ある物を入手できないというのは通則である。学者は研究を進め，成功を目指して努力してこそ，博識を得ることができる。そう努力しようとしないで，学識などというものは存在しないと言い得るであろうか。音楽家，数学者，科学者運動選手その他数多くの分野ですぐれた技術を身につけている人々は，長年の間，そこに至るまでの研究と練習と勤勉な努力を重ねてきたのである。音楽，数学，科学，運動競技などというものは存在しないと，努力しようとしないで言うことができるであろうか。神を求めたくないという理由だけで神の存在を否定するのは馬鹿げている。

歴史は神の存在を物語っている。科学は至高者の存在を確認している。論理的にも神の存在は証明される。神御自身が人に現われたもうたことに，神の存在如何の疑いをはさむことはできない。神が真に生きてましますことについてゆるぎない知識を得るには，救い主が自ら教えと導きを施されている間に述べられた戒めと教義に沿った生活をする必要がある。「わたしの教はわたし自身の教ではなく，わたしをつかわされたかたの教である。神のみこころを行おうと思う者であれば，だれでも，わたしの語っているこの教が神からのものか，それとも，わたし自身から出たものかわかるであろう」。(ヨハネ7：16～17) 言葉を換えて言うなら，心から尋ね求め，心血を注ぎ，神のみこころを行なう者は，神が真に生きてましますという知識を得ることができるということである。

神を見出し，神の方法を理解すれば，宇宙は決して偶然の所産でなく，神が前もって定められた計画によりあらゆるものがもたらされたことを知るはずである。これを知った人の人生はどれほど多くの意味を持つようになるであろうか。世の美は美しさを増し，宇宙の秩序はその意味を増すであろう。また，それぞれの秩序に従って神の日々が過ぎ，四季が移り変るのを見る時に神のすべての創造物をより以上に理解できるであろう。もし，あらゆる人が神を見出し，神の道に従うならば兄弟達に対する人々の心は愛に変わり，国々は平和を迎えるであろう。

私は神が生きてましまし，私達の永遠の天の御父であることを証する。イエスはキリストであり，御子であり，世の救い主である。神は過去の神権時代と同じく今日も予言者達にみこころをあらわされている。願わくは，私達が真心から神を知りたいという望みを持ち，神を求め得るように，イエス・キリストのみ名により祈り奉る。　　アーメン

弱きを強きへ

七十人最高評議員
ハートマン・レクター・Jr 長老

—末日聖徒イエス・キリスト教会第140回年次総大会説教—

「女から生れる人は日が短く，悩みに満ちている」，そして悪にさらされる時は，「火の子が上に飛ぶにひとしい。」（ヨブ 14：1，5：7）

この予言者ヨブの言葉は決して誇張ではなく真実を言っている。肉欲につける者をただはっきりと述べているにすぎない。ベンジャミン王はこれにつけ加えてこのように証している。「肉欲に従う人は神の敵であって，アダムの堕落してこの方そうである。しかし，人がもし聖霊の導きに従い肉欲に従うことをすてて主キリストの身代りの贖罪に由って聖徒とならないならば，とこしえに神の敵となるであろう。」（モーサヤ 3：19）

これは人類に向って述べられた力強い証であり，いかなる時代にもこれは真実であった。他人に対する人の持つ残忍さは，過去と同様現在もいかなる所にも見られる。

どのようにすれば堕落した人の性質を悪から善に変えることができるだろうか。これは人類の直面している最も重要な問題である。これにくらべると他の問題は色あせてしまうほどである。なぜならば，人は罪のあるままで救われないからである。だが，「人の性質を変えることなどできない」と言う人がいる。これは非常にしばしばまた軽率に言われる言葉である。もちろん，これは間違っている。デビド・O・マッケイ大管長は，1945年にこれと全く違うことを教えている。「将来，人の性質を大きく変えないと，世は自らの血でおぼれてしまうだろう。」

人は一方で神の戒めを守り，隣人に仕えたいと願いながら，一方では自分だけのためにしたいことを忘れかねている。什分の一を支払いたいと思いながらも，そのお金で自分に買えるものを考え続けている。もし，主のお金で何かを買えるという考えを退けるならば誘惑は去って行くだろう。悪い望みに糧を与えることをやめるならば，それは死んでしまう。だが，悪い望みに糧を与え，自らを混乱させ続けているのが人の常なのである。

私達は自ら望む霊的に調和した状態から離れようとする弱点を持っていると私は思う。あなたがたは毎日主の前にひざまづき，「弱点と不完全さ」を許したもうよう願い求めているに違いない。私達はそれを弱点と言っているが，どうしてその状態をそう呼ぶのかは知らない。もちろん，私達は罪の許しを主に求めている。だが，どういうものか私達は罪に浸るのを嫌い，それで，その状態を弱点と呼んでいる。事実，私達には弱点がある。自分にとって良くない望みをいだかせるものをだれもが持っている。

どこでこの弱点を身につけたのだろうか。もし，あなたがこの質問を聖徒達に投げかけるとすれば，余りに多くの異った答えに驚くに違いない。ある人は自分の弱点は自分の責任だと言うだろう。あなた自身が弱点から離れようとしないというのなら，それは，正しい。だが，それはどこで身につけたかという答えではない。またある人は弱点は遺伝または環境に左右されるという。いづれにしてもこの場合は両親か隣人という他人に責任をかぶせているのである。両者とも私達に大きな影響を与えてはいるが，弱点をもたらしたわけではない。また悪魔といわれるルシフェルに自分の弱点をなすりつける人もいよう。だが，ルシフェルからでもない。では一体弱点はどこから来るのだろうか。

主はモルモン経で極めて明快にその答えを述べておられる。「もし人われに来らばわれは，かれにその弱点を認めさせん。見よわれは人を謙遜にするために人に弱点を与うれど，すべてわが前にへりくだる者には充分わが恵みを授くるにより，かれらがわが前にへりくだりわれを信ずる時にはその弱きを強きに変えん。」（イテル

12：27）

ではどこで弱点を得たのだろうか。主からである。主は私達が謙遜になるように弱点を与えられた。この弱点により私達は従順になっている。私の言う意味を誤解しないでいただきたい。主に罪の責任を帰することはできない。主はただ弱点に対して責任を持ちたもうのである。あらゆる人が，形こそ違え弱点を持っているようである。性格によりある人は他の人よりも特定の誘惑に対してもろいことはあるが。リーハイはこう述べている。神は「天も地もすべてのものを造り，天地の中の万物を作用するものと作用せられるものとに造りたもうた。そして，神がわれわれの最初の両親と野の獣と空の鳥，つまりあらゆる造られるものをことごとく造りたもうてから，人間の行末にかかわる永遠のみこころを成就したもうためには物事に必ずその反対がなくてはならなかった。すなわち，禁断の実に対しては生命の木があってこれは甘くかれは苦かった。それであるから，主なる神は随意に行う自由を人間に許したもうた。しかし人間はもしもあれに誘われこれに誘われなければ，随意に選び行うことはできないのである。」（Ⅱニーファイ２：14～16）

したがって，弱点をどう扱うかはあなた自身にかかっているのである。

予言者ジョセフ・スミスはこう述べている。「三個の独立した原則ありて，それは，神のみたま，人の霊，悪魔の霊なり。あらゆる人は悪魔を宿す力を持ちたり。」（予言者ジョセフ・スミスの教えP.189）しかし，私達の弱点がサタンにさらされると，サタンはす早く私達の利己心につけこんで誘惑し優位に立とうとする。

しかしながら，弱点を与えるのは，私達の注意を喚起するための主の方法である。弱点は私達を謙遜にするための手段であると主は言われているが，私達が主に近づき，主への信仰を持てば，弱い点を強くしたもうとも言っておられる。これが真実であることを私は知っている。この原則をはっきり述べた例は聖典に数多く記されている。少しあげてみれば，モルモン経のアルマとモーサヤの息子達，聖書のペテロとパウロなどがそれである。アルマは天使に会うまで教会を迫害していた。その後，天使はアルマをモルモン経でも例を見ない程の偉大な宣教師にしたのである。パウロはダマスコの路上で主にまみえるまで聖徒達への迫害を続けていた。この時を機に，パウロは聖書に記されている最も偉大な宣教師の一人となったのだった。パウロは次のように語っている。「わたしを強くして下さるかたによって，何事でもすることができる」。（ピリピ４：13）

私はこれと同じ真理を今日目撃している。私がステーキ伝道部長の職にあった時，宣教師が末日聖徒の姉妹と結婚した非教会員のすばらしく善良な人と集会を持っていた。この人は教会に加わりたいと思っていたが，ニコチン中毒だった。何度もやめようとしたのだが，どうしてもできないと言っていた。非常に弱かったのである。

かなりの期間に６人の宣教師が彼と集会を持ったが，禁煙する力を与えることができなかった。そして，最後に私達は聖霊の導きによって，この弱点を克服するために共に断食することを申し出た。彼は考えた後，同意してくれた。私達は２日間断食できるかどうか尋ねた。彼の同意があり，実行に移した。６人のステーキ部宣教師と喫煙をやめられない彼と彼の妻が断食したのだった。

断食を終えるにあたって，私達は全員彼の家に集まり，居間にひざまづき，順に祈った。祈りは本質的には皆同じだった。それは主がこの兄弟から喫煙の欲望をとり除きたもうようにというものだった。兄弟が最後に祈った後，立ちあがって，「私はもうタバコを喫いたくありません」と言った。それ以来，彼は今日まで全くタバコを吸っていない。そして，かつてはワード部の監督会をつとめ，現在はステーキ部ＭＩＡの会長会で働いている。彼は今や確固たる信仰を持ち，主の真の指導者になっている。主は文字通り彼の弱点を取り去り，彼を力の塔としたもうたのである。

だから，弱点があっても，あきらめるべきではない。また弱点を否定すべきでも，思い悩むべきでもない。間違いなく理解していただきたい。主は私達にすぐれた者になるよう望んでおられるだけなのである。そして私達もすぐれた者になるであろう。なぜならば主は私達に力を与えたもうからである。私達が謙遜になって主のもとへ行き，信仰を用いるならば，弱点は最大の長所となるのである。主は私達を許したもうばかりでなく，ただちに恵みを与えて下さる。そして新しい自信と視野を得，限界を広げ，新しく生れ変ることができよう。

予言者モルモンは私が奇跡を行なうための条件と申し上げたい事柄を非常にはっきりと述べている。それは，第Ⅲニーファイ８章１節に記されている。「さて私たちの年代記を書く人は正しい人であって，イエスの御名によって本当にいろいろの奇蹟を行った。悪から全く清められるのでなければ，イエスの御名によって奇蹟を行える人はない。私たちはその年代記によって，この人の書く年代記の真実であることを知る。」

これが条件である。私達は悪から全く清められなければならない。私が初めてこの聖句を読んだ時，「早く悔い改めなさい」と言っているように感じた。悔い改めのないところに奇跡はないからである。

だが悔い改めは主により許されることである。悔い改めは主の恵みが90％人の努力が10％の割合で成り立っていると私は信じている。ニーファイはさらにこう述べている。「それは人が最善をつくしてはじめて，神のめぐみにより救われるからである。」（Ⅱニーファイ25：23）しかし人の占める部分は急を用しており，また重きを置くべきである。それは第一にすべきことであり，すべてであって，心からのものでなければならないからである。古代ヘブライ人の書に，「天の心を動かすには，まず自らの心を動かさねばならない」という言葉がある。この意味は，私達人間の方から最初に悔い改めなければならないということである。私達は主を待っているという時がよくある。実はその時，主が私達を待っておられるのである。「人罪を悔い改めしや否やは，見よ，彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ，その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」（教義と聖約58：43）

この時，主は許したもうばかりか，祝福をも与えたもうのである。主の慈悲と優しさはいかばかりであろうか。兄弟，姉妹の皆さん，天父なる神は生きてましまし，私達の祈りを聞きとどけたまいイエスがキリストであって生きておられることを証する。キリストは生きておられ，悔い改めて主の前に行く者に罪の許しを可能にしたもうたことを私は知っている。また悔い改めと従順により，弱きを強きに変えたもうことを証する。そしてその時は今である。

イエス・キリストの御名によりて。　　アーメン

昔から，モルモン教徒の言葉は証文に等しいと言われてきた。モルモン教徒がいったん約束をしたら，それは充分信頼できるのである。たとえそれが金銭，時間，努力を犠牲にすることであっても，いちど約束をしたからには，かならず守ると信じてよいのである。これは今日にも通じることであろうか。

正直にもいろいろな形がある。たとえば一日の報酬に対して完全に一日分の仕事をするというように。だらだら仕事をしたり，骨惜しみをしたり，あるいは休憩室でぶらぶらしたりしている人は正直と言えるだろうか。また水飲み場をうろついたり，昼休みを15分も余計に取っている人はどうだろうか。会社のお金を浪費するというような企業上の不正直な習慣は，表にするほど数多くある。不必要な私用電話，遅刻，家に会社の紙や鉛筆，切手などを持ち帰ること，会社の費用で私信を出すなどである。かつて顔をしかめたこれらの悪習が，今日では「だれもがやっている」という言い訳のもとに，ほとんど公然と認められている。ところが事実は，だれもがやっていることではないのである。世の中には，まだまだ正直な人がたくさんいる。

正直はこのように物質的なことのみに限らない。家庭の中にも正直がなければならない。人は妻に，妻は夫に正直でなければならない。子供は両親に，そして両親は子供に対して正直でなければならないのである。正直とは，家族，友人，隣人，社会，そして国家に対する忠誠である。正直は，人を信頼させる小さなことの集まりであり，慈愛深い天の父を心から礼拝する上で欠くべからざる原則である。天父がその御子をこよなく愛した理由の一つは，御子が信ずるに足る人だったからである。

イエスは言われた。

「父は，わたしが自分の命を捨てるから，わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは，それを再び得るためである。だれかがわたしからそれを取り去るのではない。わたしが，自分からそれを捨てるのである。わたしには，それを捨てる力があり，またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである。」（ヨハネ10：17～18）

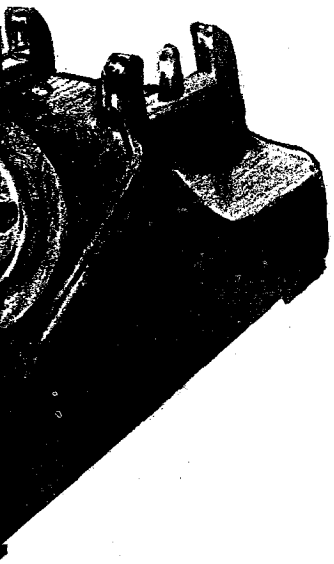
イエスは，人を助けるべく神から賜わった力を使われた。私たちが人を助ける時，このような証を持てたとしたらどんなにすばらしいことであろうか。イエスと同じように，私たちも，「父は，わたしが父の望まれる通りにするから，わたしを愛して下さるのである。」と言えたら，それはすばらしいことである。私は，末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての会員が，正直な人々すなわち世にあって信頼される人々の中に数えられるよう，心から望んでいる。教会員の中には世の中に屈している人々がいる。日曜日には宗教を身にまといながら，仕事につくとすっかり忘れてしまい，取り引きの問題になると同業者と同じように抜け目なく，不正直になるのである。しかし，成功と同時に正直な心も持ち続けることができるのである。つまり，利己的で不正直な時よりも，正直な人としての方が成功できるのである。

だれも生まれつき正直な人や，不正直な人はいない。正直になるよう教えられなければならないのである。私たちは「正直が最良の方策である」ことを心から知るために，不正直による苦痛，心配，不安を味わう必要がある。予言者アルマは息子コリアントンに言っている。「罪悪は決して幸福を生じたことはない。」（アルマ41：10）不正直な人はやがて次のことに気づくのである。不正直はその人の人生を滅ぼすだけでなく，家族に恥辱と不名誉をもたらすことを。また自分が属している教会員をもはずかしめ，苦しみを与えるのである。好むと好まざるとにかかわらず，私たちも同じように見られる。

小さなことには不正直になりがちである。鉛筆を家に持ち帰ることを不正直な行ないと考えている人は少ない。教会には約3,500人の従業員がいるが，鉛筆1本を5セントとして，もし各人が鉛筆を1本ずつ家に持ち帰ったとしたら，教会の被る損害は175ドルになる。175ドル盗むことをためらう人は，鉛筆1本取ることも決して見逃さないであろう。それでは，人は不正直の限界をどこに置くのだろうか。小さなことはすぐにも大きなことに発展する。私たちが気がついた時には，さらに大きな罪に発展しているのである。

うそをつくことも小さなことのように思えるかもしれないが，やがてうそがうそを呼んでついには評判を落す結果になる。いったんうそつき，ペテン師，どろぼうなどというレッテルを貼られたらもとの評判を取り戻すまでには，長い悔い改めと回復の時期が必要である。評判というものは，不注意や軽率な行動で簡単に悪評と化してしまうのである。正直と不正直のいずれかになるべきものであれば，正直の方を選ぼうではないか。

すべての少年の母親が私の母のようであったらと思う。ある日，私はリンゴをかじりながら家へ帰った。母にどこでそのリンゴを手に入れたのかと聞かれて，私は見つけたのだと答えた。母はすぐにそのリンゴは私がゴッダードさんの八百屋で「見つけた」のだといったことに気づいて，私に返してくるように言いつけた。大部かじってしまっているのでいやだと言ったが，母はガンとして聞き入れず，とうとう私は食べかけのリンゴを持ってゴッダードさんの所へ行った。そして恥ずかしさで一杯になりながらリンゴを盗んだことをうち明けた。彼は母に電話をかけ，私がリンゴを返しに来たが盗んだ時から知っていて大したことではないので何も言わなかったのだと説明した。しかし母にとってはささいなことではなかった。私



正直は最良の方策

十二使徒評議員会補助
セオドア・M・バートン長老

を愛するあまり，どろぼうにさせたくはなかったのである。

不正直な人々につきものの現象がある。彼らはすぐに批判的になり，自分たちの不正に忠告する指導者たちのあらを探すようになる。自分の人生を悔い改め，善に向かう変わりに，指導者の過ちを見つけて自分の悪事を正当化しようとする。予言者ジョセフ・スミスはこう言っている。

「私は，王国の奥義に関する鍵の一つを示そう。それは永遠の原則であって，神と共にとこしえに存在している。すなわち，自分は正しいにもかかわらず人々は道からそれていると公言し，教会のあらを探して他人を咎める者。はっきりと知って欲しい。こういう人は背教への道を進んでいるのである。そして悔い改めないならば，神が生きたもうごとく確かに彼は背教するであろう。」（「予言者 ジョセフ・スミスの教え」ジョセフ・フィールディング・スミス，英文 P.156～157）

今一つの明白な真理は，神が正しい者を祝福したもうことである。神から豊かな恵みをあふれるほどにいただいている時には，よく私たちは神の御手をもう必要としないと考え，神を忘れるものである。私は，現在のように繁栄した時代にあっても造り主を忘れることなく，また今日を築き上げてきた正直と誠実の習慣を忘れないようにしたいと思う。モルモン経の偉大な予言者ヒラマンはこう記している。

「世の中の人は二心で変り易いことが明らかである。また主がその限りない大きな恵みを以て，主を信頼する者を恵んで栄えさせたもうことも明らかである。また主がその民を栄えさせ……，同時に民は安楽で隆盛を極めているためにその心をかたくなにし，その神である主を忘れて聖者を足の下にふみにじることも明らかである。……ああ，世の中の人はいかにもおごり高ぶって……かれらはその神である主を思いその訓えに耳を傾け，知恵の道をふむのがおそいではないか。」（ヒラマン12：1～2，5）

私たちがいずれの道を歩んでいるのか，自分たちの言動を調べてみることは賢明ではないだろうか。私たちの言葉は証文と同じように正しいものであろうか。どんな小さなことでも，人に対して正直であろうか。ただ単に抜け目のない不正直なやり方が特徴である現代に住んでいるからと言って，私たち末日聖徒が信頼に足らない人間になってよいという言い訳にはならない。人はうそをつこうが，自分が不正直であってよいということにはならないからである。むしろ，永遠の父なる神のみもとにたち返らせる正直と正義の道を人に教えるよう，私たちは正義の指導者にならなければならないのである。私たちが導くうえで神権の力が与えられている。神権者は，世のいかなることにあっても正直と徳の柱となるべき人である。使徒ペテロは神権指導者に向かって次のように言っている。

「しかし，あなたがたは，選ばれた種族，忠実なる神権者，聖なる国民，神につける民である。それによって，暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを，あなたがたが語り伝えるためである。

愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは，この世の旅人であり寄留者であるから，たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。異邦人の中にあって，りっぱな行いをしなさい。そうすれば，彼らは，あなたがたを悪人呼ばわりしていても，あなたがたのりっぱなわざを見て，かえって，おとずれの日に神をあがめるようになろう。」（欽定訳 Ⅰペテロ2：9，11～12）

神の子である私たちは，それにふさわしいよい働きと正直な行ないをし，正しい徳に満ちあふれた人生にしなければならない。イエス・キリストの御名をその身に受ける時，私たちはまさに自分の生活を通して偉大な名前を守る責任がある。

キリスト教徒の私たちが持っているその崇高な名前を誉れとしないということは，自分たちの信ずる神をはずかしめることである。事実，再び人々の前でイエスを十字架にかけることになるのである。

これらのことは確かに事実である。しかし，いにしえのアミュレクのように，私たちはよく知っていながら耳を傾けないことがある。アミュレクは言った。

「ところが私は心をかたくなにしてたびたび呼ばれても聞き従おうとしなかった。それであるから，これらのことが確かにあることを知りながら，これらについて知りたがらなかった。従って，私は悪い心を持ったまま神にそむき……」（アルマ10：6）

神の方法が決して失敗しないことは衆知のとおりである。神はかならず目的を達成され，心をかたくなにしなければ，私たちを罪から救って下さるのである。

これは神の御業である。私たちは神の子供であり，神の期待を裏切ってはならない。心から真実であると信じている。その教えに従おうではないか。今や，イエスは真にキリストであり，生ける神の生ける御子であることをおぼえる時である。イエスは世の贖い主，救い主である。私はここに，イエス・キリストの御名により主の教えが神よりのものであり，その目的が正義に根ざしていることを証するものである。

もし愛がなければ・・・

十二使徒評議員会補助
セオドア・M・バートン長老

パウロが書いたコリント人への手紙は，ギリシャに住んでいた当時のイエス・キリストの教会員に宛てたものである。この会員たちが住んでいたところは，偽善と政略に満ちた世俗的な世界であった。彼らが周囲の状況に影響されるのも無理からぬことであった。やがて彼らは律法の精神よりも文字にとらわれるようになり，到達すべき目標は学識や知識を得ることであると思い始めた。福音の原則と儀式を，救いを保証してくれる機械的な手段と考えたのである。彼らにとっては霊的な人よりも肉欲に従う人の方が大切になっていった。

パウロは，イエス・キリストにより教えられた福音の真価を理解させるため，彼らに次のような衝撃的な言葉を発している。

「たといわたしが，人々の言葉や御使たちの言葉を語っても，もし愛（キリストの純粋な愛）がなければ，わたしは，やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。たといまた，わたしに予言をする力があり，あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても，また山を移すほどの強い信仰があっても，もし愛がなければ，わたしは無に等しい。」（Ⅰコリント 13：1—2）

イエスと当時の使徒たちによって教えられた愛の福音は，当時と同様に今日においても重要である。愛の福音は変わっていない。

現代の聖徒も，古代ギリシャにおけるコリントの聖徒と状況は変わらない。私たちのまわりにも偽善が満ちており，「愛」という言葉も愛のないただの文字にゆがめられている。社会に反抗しているグループが，崩壊を目差して旗印に使っている言葉はパウロの言う愛ではない。壁やへいに落書きされている言葉は，パウロの語った「キリストの純粋な愛」とは違う。

キリストの純粋な愛は，愛の最も崇高な形である。この愛は自分の一部を人に与えてその人に対する思いやりとあわれみを示すほどに大きなものである。「愛しています」と言葉に出すことはやさしい。しかし愛は言葉に発するだけでなく，行動に示されるべきである。愛は態度で示されない限り，耳をつんざき，霊を騒がすやかましい鏡鉢や太鼓にすぎない。真の愛には，イエスが地上で示されたように，与える側と受ける側の双方に犠牲が必要である。

教会の責任に向かっている数人の姉妹が，雨の日に車を運転していてタイヤがパンクしてしまった。彼女たちは車を路肩に止めたが，そこはぬれていて危険だった。集会の時間が近づいていた。車からおりてトランクをあけたその時，背後に小型トラックが止まった。19歳ぐらいの若い運転手が事情を知ってライトをつけ，姉妹たちに車に戻るようにと言った。それから車のタイヤを換えてあげたのである。姉妹たちはとても感謝し，感謝の気持として彼の手に1ドル札を2枚にぎらせた。ところが彼は，お金をトランクに入れるとふたをバタンとしめてこう言った。「せっかくの好意がだいなしですね。」その若者は愛の本当の意味を知っていたのである。

報酬を目的としない奉仕は真の愛から出たものである。秘書をしている若い女性が，「自分の仕事が好きですか」と聞かれて，「愛してますわ」と答えた。しかし，彼女は報酬を受けていないだろうか。ところが彼女は，週5日朝8時から夕方5時までの分の報酬を得ているのである。7時45分に会社に着くと上司の机を掃除し，書類をきちんと揃えて，自分が買って来た鉢植えに水をやる。電話の応待も明るく，上司の要求にもよく気がついていつでも心よく仕事をし，使い走りもする。時には直された手紙をタイプしなおしたり，上役の仕事が終るまで待って手当のつかない残業をすることもあった。来客からだれかの居所を尋ねられれば，ただ説明するかわりに自分で案内をして彼らを紹介し，両方から感謝されるのである。彼女はその行ないを通して仕事に対する愛を示している。

親切に対する報酬を受けた場合，それは真の愛，あるいは純粋な愛を表わしてはいない。当節の人は，ボーイスカウトのやっている「良い行ない」を今や時代遅れだと鼻であしらっている。パウロは，「愛はいつまでも絶えることがない」と言っている。愛には流行

遅れなどないのである。言い換えれば愛は永遠である。真の愛，あるいはキリストの純粋な愛の精神で行なう人への奉仕は，次の世に携えて行くことのできる宝である。

経済的に成功したあるステーキ部長が，ステーキ部の仕事をするための貴重な時間が取れないという理由で，大手の保険会社の重役の職をことわった。彼は仕事を愛しているだろうか。多くの人はこう言うであろう。そんな好機を見逃すなんて彼は馬鹿だ。神は人にそのような犠牲を求めてはいないと。また，彼はどうせ生計を立てなければならないのだし，その地位にいれば教会の印象を良くすることもできただろうにと言うかもしれない。私たちはそう思っているのだろうか。もしそうであれば，私たちは世のものにとらわれて，パウロの語った愛への理解から遠ざかり始めているのである。

家庭あるいは教会で教師の職にありしかも自分の都合に左右されずその仕事をしているとすれば，あなたは愛の精神をつかみ始めていると言えよう。またもし，心の中に腹立たしい気持や恨み，反抗心を持たずに責任を果たすのであれば，この愛はさらにはぐくまれていく。人に奉仕する機会のあることを感謝する気持で教える時は，あなたは真の意味で純粋な愛を実践しているのである。この物事をなす時の精神こそが，あたりまえのことを偉大なことにまで高める。内なる幸福の輝きは正しい理由で正しいことをなすことから生じる。まことにパウロはこう言っている。

「信仰と希望と愛と，この三つである。このうちで最も大いなるものは，愛である。」（Ⅰコリント13：13）

「勇気ある者」となろう

第一副管長

N・エルドン・タナー

私は少年の頃に父から教えられた大好きな聖句に導きを求めてきたようである。その時以来，私が手がけて来た教会の書物あるいは説教は，この聖句なしには一つとして完成できなかったと思う。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて（私たちのためになるこの世のものをいう）添えて与えられるであろう。」（マタイ6：33）

私にとってこの聖句はあらゆる意味で大いに役立っており，この忠告に従う人は他のどんな言葉に従う人よりも幸福になり，成功するということを常に主張してきた。私たちは，天父なる神のみもとで不死不滅と永遠の生命を得るための備えとして，この地上に来て死すべき状態を受けるよう許されていることを忘れてはならない。

では，どうやってこの不死不滅と永遠の生命を得るのだろうか。まず第一に，福音とこの祝福を得るための条件を知らなければならない。福音を理解

するには，私たちは神を知ってその戒めに従う必要がある。この戒めは，神がまさにその目的のために私たちに与えられたのである。また，御子イエス・キリストを世の救い主，贖い主として認め，イエスの教えを受け入れて実践しなければならない。主は，いちばん大切な第一のいましめは心をつくして主なる私たちの神を愛すること，そして第二は自分を愛するように隣人を愛することであると教えられた。

良きサマリヤ人のたとえ話からは，すべての人が隣人であるということがわかる。それゆえ，第一の戒めを守って自分を愛するように同胞を愛するならば，自分の受けている祝福を他の人にも受けて欲しいと望むであろう。最も大いなる祝福が福音によりもたらされることから，私たちは隣人に福音を分かつことを最も大きな望みとしなければならない。

私が西ヨーロッパ伝道部を管理していた時，宣教師と共に働くのはもちろんのこと，数人のアメリカ軍人たちと接する機会があった。西ドイツのベルクテスガーテンという所で大会を開いた時，彼らも妻や子供を連れて出席し総勢千人以上もの人がこの大会に参加した。世界の各地に駐留したことがあり，しかもグループには一人あるいは数人の教会員しかいないという状態を経験してきたこの若者たちが，福音は真実であると証するその言葉には私たちを大いに励ますものがあった。この証があるからこそ，彼らはあらゆる反対や誘惑に立ち向かい，イエス・キリストの福音を恥としないと言いえたのである。彼らが苦難や辛苦に耐えることができたのも証のおかげであったと思う。

これらの軍人の中に，全期間をフランスで伝道したことのある人が一人いた。彼の話によると，専任宣教師としてフランスにいた2年半よりも軍隊で過した数ケ月の方が，はるかに改宗者のバプテスマ数が多かったそうである。

医者であるもう一人の青年は，団体である国を訪問した時の話をした。案内人はアメリカ政府とその発展ぶりなどをほめちぎっていた。案内人が口を休めた昼食の時，この若い医者は彼に向かってこう意見を述べた。

「ここにはアメリカ人旅行者が45人おり，それぞれ違った教会に属しています。カトリックもいれば，長老派教会，メソジスト派，その他の教会員もいます。まったく同じように信じてはいなくとも，私たちはみな仲良くやっており，互いに愛を持っています。私はモルモン教徒です。私は，永遠の父なる神とその御子イエス・キリストを信じています。そしてまた，この御二方が一人の青年の前に現われ，彼の祈りを聞きとどけられて導きと答えを与えられたことを信じているのです。」

彼はグループの人にジョセフ・スミスの話を聞かせ，ジョセフが森へ入って行き福音が回復された時の様子を話した。彼は私たちにこう言った。「彼らはじっと話を聞いていました。私は彼らに話して聞かせたのですから，彼らが裁きの座の前に立った時に，その口から『私は福音の回復について聞いたこともありません』という言葉を聞きたくないと思いました。私は，私たちが信じていることをはっきりと彼らに伝えました。」

彼はまた，事務所にたずねて来た若者に名前をたずねた時のことを話してくれた。その若者が名前をスミスと言ったので，彼は「ジョセフ・スミスと関係がありますか」と尋ねたそうである。あっけにとられた若者が「ジョセフ・スミスってだれですか」と聞くとさっそくこの好機をとらえて，彼はジョセフ・スミスと福音の回復について話して聞かせたのである。

私たちは，確信していることを堂々と言おうではないか。いついかなる時にも証を述べようではないか。福音の真実性，神の実在，御子イエス・キリストの神より与えられた使命を認識しよう。ジョセフ・スミスは神の予言者であることを，また教会の大管長ジョセフ・フィールディング・スミスは主の代弁者であり，キリスト御自身を隅のかしら石としてたてられた教会を導く人であることを世の人々に伝えようではないか。

私たちが愛と一致の精神をもって働き，大管長の指示のもとに前進するなら，王国は発展し，聖句にある通り神の国が全地に満ちるであろう。この王国を築く助けをなす時，私たちはその一員となって祝福を受ける備えをしているのである。

ちいさすぎるテリー
と
しんがっきのだい一日め

テリーは，とてもかなしいきもちでげんかんのかいだんにこしをおろしていました。その日は，しんがっきのだい一日めでしたので，テリーのおともだちはみんながっこうにいってしまったのです。

テリーだけがいえにひとりのこされたのでした。「おまえはがっこうにいくにはまだちいさすぎるよ。」と，おにいさんのロビーがいいました。「らいねんになれば，がっこうへいけるようになるけど，いまはまだちいさすぎてだめだよ。」といちばん上のジョンにいさんもいいました。

そういってから，おにいさんたちはテリーひとりをおいて，がっこうにいってしまったのです。がっこうはおもしろいだろうなあと，テリーはおもいました。いまは，いえのまわりにはなにもすることがありませんでした。テリーはちいさすぎました。がっこうにいくにもちいさすぎるし，どんなたいせつなことをするにもちいさすぎるのでした。

テリーはたちあがりました。「そこのかどまでさんぽにいってくるよ。」とテリーはお母さんにこえをかけました。「いってらっしゃい，でもどうろをよこぎる

んじゃありませんよ。」とおかあさんがこたえました。

「よこぎらないよ。」とテリーはいいました。そして「あなたはちいさすぎますからね。」と，もうすこしでおかあさんがいいそうなのが，テリーにはわかりました。

テリーは，おおきなほどうをゆっくりとあるいていきました。となりきんじょはとてもしずまりかえっているようにみえましたが，テリーがグレッグ・レイリーのいえのそばをとおりかかったとき，グレッグのあたらしいこいぬのハッピーがはしりよってきて，さくをとびこえ，ほえながらしっぽをふりました。

「こんにちは，ハッピー。」テリーがいいました。

レイリーふじんがいえのかどをまがってやってきました。「あらテリー，ちょっとハッピーと遊んでいらっしゃいな。こどもたちがみんながっこうに行ってしまったので，けさからハッピーはさびしがっているのよ」

それで，テリーはハッピーがつかれてあくびをし，しっぽをまるめてひなたでひるねをしてしまうまで，いっしょにおにごっこをしたり，ボールあそびをしてにわをかけまわってあそびました。

テリーをおもてもんからみおくりながら，レイリーふじんがいいました。「あなたが，まだがっこうにいくほどおおきくなくてよかったわ。ハッピーは，けさいっしょにあそんでくれるひとがほしかったのよ。」

テリーがヘイルのいえをとおりすぎるとき，ヘイルふじんはうらにわでせんたくものをほしていました。ヘイルふじんのあかちゃんのサリーは，ほこうきのなかで，あしをバタバタさせながらおおごえをあげていました。テリーは，サリーがわらっているのか，ないているのかけんとうがつかないので，うらにわのほうへあるいていってみました。プラスチックのおにんぎょうが，しばふのうえにおちていました。テリーはそれをひろいあげ，あかちゃんにもたせました。あかちゃんはおおごえをはりあげるのをやめて，テリーをみあげてニッコリしました。ヘイルふじんもほほえみました。

「まあ，テリー。あなたはサリーをなきやめさせたのね。サリーはおもちゃをなげて，だれかにひろってもらいたかったのよ。サリーはおもちゃをなげるのがすきなの。けれど，わたしはせんたくものをほさなくてはならないでしょう。」

それでテリーは，サリーがおにんぎょうやガラガラやプラスチックのくびかざりなどをなげると，すぐにひろいあげてはサリーのあそびのあいてをしました。そのあそびは，テリーがいままでやったことのない，たのしいあそびでした。ヘイルふじんがせんたくものをほしおわりました。

「ありがとう，テリー。サリーはこどもたちががっこうに行ってしまったのでさびしがっていたのよ。あなたがまだがっこうにいかなくてよかったわ。またきて，サリーとあそんでちょうだいね。」とヘイルふじんがテリーにいいました。

ワーカーのいえのそばのまがりかどをまがって，テリーはじぶんのいえのほうへあるいていきました。

「テリー，テリー。」とだれかがよんだので，テリーはたちどまりました。

ワーカーふじんが，いえのまえにたっていました。「テリー，あなたのおかあさんがきょう，このあたらしいクッキーをつくってみたいそうよ。おかあさんにつくりかたのかいてあるカードをとどけてくれないかしら。」

テリーが，そのカードをうけとったとき，ワーカーふじんがいいました。「きんじょに，まだがっこうにいっていないで，おてつだいをしてくれるおとこのこがいてくれてうれしいわ。あなたが，まだちいさくてがっこうにいっていないことはすばらしいことよ，テリー。」

テリーはいえにかえりながら，ワーカーふじんのいったことをかんがえました。

おひるもちかくなったころ，テリーはまたげんかんのかいだんのところにすわって，そのことについてもっとよくかんがえてみました。テリーは，がっこうへいくにはちいさすぎるけれど，テリーにもできるとてもたいせつなことがほかにあったのでした。テリーはハッピーや，あかちゃんのサリーのあいてをしたり，ワーカーふじんのおてつだいをして，クッキーのつくりかたのカードをとどけました。

そしてかいだんのところにすわって，クッキーのやけるおいしそうなにおいをかぎながら，テリーはもうひとつのことをおもいつきました。

「おかあさん。ぼくがいえにいて，なにかおかあさんのやくにたったらうれしいでしょう？」

「もちろんよ。」とおかあさんはテリーをあんしんさせるようにいいました。

「いま，おかあさんをてつだってもいい？」

「ええ，いいわ。」テリーはたちあがりました。「ぼくは，このできたてのクッキーのあじをみてあげられるとおもうんだ。」

羊飼いの少年ダビデ

ドロシー・O・バーカー

ダビデは羊飼いとして楽しく生活していました。ダビデは羊がしずかに草を食べ，子羊のなきごえのきこえるそばでめい想にふけったり，ハープをかきならし自分でうたったり美しい曲をつくったりして，長い一日をすごしていました。

予言者サムエルがつかわされ，ダビデの頭に油をそそいで祝福をほどこしたその日から，ダビデは，この美しい地球を創造された神のことを心に思いつづけてきました。今や，神はダビデにとってとても身近な方に思われました。朝日や強い風，どっしりした丘など，すべてのものが，子供を愛する父のようにその民を見まもっている全能の神について語っているのでした。

ある日，ふたたび召使いが丘にいるダビデをよびに大急ぎでやってきました。ダビデは，病気で悲しんでおり，音楽がわずらっている心をなぐさめるかも知れないと思っているサウル王のところへハープをもってすぐに行かねばなりませんでした。

ダビデは偉大な戦士である王の前で，すっかりあがってしまいました。でも王様はなんといかめしく，なんとふさぎこんでみえたことでしょう。ダビデはハープをひきながら，空や丘，シダの木々，とびはねる小羊などの歌をうたいました。そのあまい音楽のしらべをきいているうちに，悲しむ心はなぐさめられて，王様は起きて自分の隊にもどることができたのでした。

イスラエル軍は丘のそばに陣どり，ペリシテ軍は丘の反対側に陣をはっていました。二つの陣営の間を谷にそって小さな川が流れており，今や両方の隊は合戦をはじめようとしているのでした。

毎朝，ペリシテ軍から，ガテのゴリアテという名の強者が出てきては戦いをいどんでくるのでした。その大男は，よろいかぶとで完全に身をおおい，たて持ちを自分の前において守らせ，丘の上に立って大声で呼ばわっていいました。

「おまえたちから，ひとりをえらんでわたしのところへ下ってこさせよ。もしその人が戦ってわたしを殺すことができたら，われわれはおまえたちのけらいになる。しかしわたしが勝ってその人を殺したなら，おまえたちはわれわれのけらいになって仕えなければならない」（サムエル上　17：8―9）

イスラエル軍は，ペリシテ軍の言葉をきいておそれ，だれひとりとしてペリシテの巨人と戦う勇気のある人はいませんでした。

ある朝，ダビデはお兄さんに会うために陣営にやってきました。ダビデは谷のむこうから聞こえてくるゴリアテの声を聞いてお兄さんに，だれがあの挑戦にこたえるのかをききました。ダビデは，すべてのイスラエル人が恐れているのを知ってあきれてしまいました。ダビデは自分が行ってペリシテ

軍と戦おうといいました。

それからダビデは王のテントにすぐにつれて行かれました。しかしサウル王は羊飼いの若者を見て静かにいいました。「おまえはこのペリシテ軍にむかって行きゴリアテと戦うことはできない。おまえはまだ若いし，あの男は若い時から戦いには慣れているのだ。」

ダビデはサウル王に，自分が父の羊を飼っていることや，ライオンやくまが，群の小羊をとりにやってきたことを話しました。ダビデはくまやライオンのあとをおいかけて行き，子羊を助け出しました。ライオンがダビデにとびついてきた時ライオンを殺したことを話しました。そしてこう言いました。「ライオンやくまの牙から私を救ってくれた主は，ペリシテ軍の手からもきっと私を守ってくださるでしょう。」

「行きなさい。」と王がいいました。「そして主があなたと共にあるように。」とつけ加えました。

サムエル王が，自分のヘルメットと剣とたてとを使うようにさしだした時，ダビデは，それらは重すぎるからといってことわりました。ダビデは自分のつえと羊飼いの石投器と小川からひろってきた5つのすべすべした石の他に何も武装せず，巨人にたちむかうために堂々と進んで行きました。

ゴリアテはイスラエル軍が自分と戦わせるために，一介の羊飼の少年をよこしたのを見ておこって叫びました。「つえをもってむかってくるとは，私を犬だとでもいうのか。」

「おまえはつるぎとやりと投げやりとをもってわたしにむかってくるがわたしは万軍の主の名，すなわちおまえがいどんだ，イスラエル軍の神の名によってお前にたちむかう。きょう，主はおまえをわたしの手にわたされるであろう。わたしはおまえをうって首をはね，ペリシテびとの軍勢のしかばねをきょう，空の鳥，地の野獣のえじきにし，イスラエルに神がおられることを全地に知らせよう。」（サムエル上　17：43—46）

ダビデはおそれずに巨人にむかって走って行きました。ダビデは小さな石を石投器につけてペリシテ人にむけてたくみに放ちました。それがみごとに命中してペリシテ人はうつぶせにたおれました。ゴリアテが，その重い体を伏して倒れたのです。

ペリシテ軍はその軍の強者が死んだのを見て恐ろしさに大声をあげ，陣をあとにして，自分たちの国に逃げかえっていきました。

ダビデはイスラエルの英雄となりました。ダビデは自分の羊のところへは戻らずに軍隊の高い地位を与えられました。すべての人がダビデを賞め讃え，愛し，ダビデについての歌をうたいました。

（トラブ・ウインによるさし絵）

什分の一

ジョン・H・バンデンバーグ

今日の若者は，何かをするように頼まれるとその理由を知りたがる。この理由を知ろうとする望みは，うまく使うなら人格形成上の大きな特質ともなり得る。なぜなら正しい理由にもとづいて正しい行ないをするということは大切なことだからである。

たとえば，デビド・O・マッケイ大管長はこのように忠告している。「利己的な目的で什分の一を払うべきではない。ただ自分の名前が記録にのるようにと什分の一をおさめる者は，その報いを受ける。その名前を記録されるという報いを受けるのである。ちょうど人に見せあるいは聞かせようとして祈る人々のように，『よく言っておくが，彼らはその報いを受けてしまっている』のである。しかし他の人々を助け，義を広めたいという気持で什分の一をささげる人，感謝の念をもって喜んでささげる人々もまたその報いを受ける。確かに，彼らは与えると同時に報いを得ている。すなわち，キリストのために命を捨てる者は，それを見いだすのである。」

一般に，人は自分で働いて得たものを分け与えたいとはなかなか思えないものである。これは，特に男性が生活の大部分を，自分自身と家族を養っていくお金を得ることに費しているという事実を考えてみれば理解できる。働き始めたばかりの若者は，自分たちの費した時間と労力にしばしば驚きの目をみはる。働いてお金を得ようと努力している人がささげものをするとき，実際に自分自身をささげているように感じるものである。

本当に自分の一部である何かを，私たちの最大の努力の成果である何かをささげること以上に，主と教会に対して私たちの愛をよく示すことができるだろうか。そのようにすることはすばらしいことである。

什分の一としておさめる私たちの収入の10パーセントは，教会の運営費として使われる。私たちが礼拝し，神聖な儀式を行なう教会堂や神殿を建てるのはこの什分の一である。奉仕の旅を終えた宣教師たちを家に迎えるのも什分の一である。大学や宗教講座，神学講座などの教育機関をささえているのもまた什分の一である。

私たちは什分の一が，そのように大切な業をささえているということを知って祝福されるだけでなく，戒めを守ることによって注がれる霊的な恵みをも受けるのである。主は，私たちが主に求めている祝福にみあうだけのお金を必要とされておられるわけではない。

什分の一を払うことによって，私たちは今日ではまれになっている謙遜という美徳を養うことができる。主を愛するがゆえに地上に神の王国を建てたいという正しい理由で什分の一を払うなら，私たちは謙遜に向って一歩踏み出しているのである。非利己的な心が欠けている今日，喜びと感謝の気持をもって什分の一を払うということは，そのような心を養うすばらしい訓練となるのである。

たとえ疑問があっても，寛大な心は主を喜ばせるものである。過去において，什分の一が時々品物でおさめられたとき，それは特に若い人々の間でしばしば問題となった。父親が息子たちに，最上の干し草を什分の一として監督の倉庫に持っていくように言った話がある。

干し草を育て，刈り，貯えるまで手伝いをしてきたその息子たちは，不服そうにこう言った。「どうして最上の干し草でなきゃいけないんだろう。普通の干し草でもかまわないじゃないか。」

父親の答えに，みんなはだまってしまった。「お母さんと私が子供をさずけてくださるようにと主に祈ったとき，私たちは主の持てるものの中で最良のものを与えてくださるようにと主に願った。そして主はその通りにしてくださったのだ。」

お金を費す場はたくさんある。お金の最良の使い道を知ることは，どの時代にあっても貴重な教訓である。他のすべての支払を済ませてから什分の一をおさめようとしたことのある人はだれでも，この方法が決してうまくいかないことを知っている。什分の一が納められるほど多くのお金をもらっている人はだれもいないと言った人がいる。問題は，人が什分の一を払うだけの信仰があるかどうかということにある。

什分の一は，自制心をやしなうという点で断食とも似ている。空腹のときに食事をとらないで食欲を押えることのできる人は，たいてい喜んで什分の一を納め，利己的な欲望をよく押えることができるものである。今日多くの若者が持っている問題の原因の一つに彼らが何ごとにおいても決して否定されたことがないということがあげられる。幻覚剤で人生をだめにしてしまったある若者は，両親は自分が望むものをなんでも与えてくれたと言っていた。若者が，強さは自制心を働かせることによりもたらされ，幸福は個人個人が犠牲と努力を払って得られるものであると知ることは，なんと大切なことであろうか。

什分の一を払うことは，礼拝することである。個人に対する主の愛の深さを知るようになると，その人はもっと完全に主を礼拝したいと強く望むようになる。什分の一はこの望みに対する当然の答えなのである。今私たちは主のために命を捧げるようにと望まれてはいないが，私たちの生活における働

きの成果を，什分の一という形でささげることができるのである。

大管長会の一員であった故スティーブン．L．リチャーズ長老は，「什分の一のおきて」というパンフレットの中でこう言っている。「什分の一は，喜んでおさめなくてはならない。キリストの福音は喜びの福音である。『人類が現世にあるのは幸福を得るため』なのである。什分の一を喜んでおさめるのでなければ，その人は受けるべき祝福の一部を失ってしまう。私たちは喜び進んで心から什分の一をささげなくてはならない。そうするなら，ささげ物は祝福される。また，いっそう多くの喜びを受けるためには，何回もそれをおさめる必要がある。年に一度まとめて払うのではなく，年間を通して何回かおさめるならば，ささげることの喜びばかりでなく，習慣も身につく……おさめやすいというばかりでなく，さらに大きな恵みをいただくためにも収入が入るたびに什分の一をおさめることを心より勧めたい。私たちは，教会で神のみわざのために身と心をささげているが，主より与えられた『什分の一』のおきてほどに，私たちの真心をはっきり証明するものはない。『己れのものを与える人は，自分と飢えたる隣人と主を喜ばせる』そういうことから，什分の一のおきては福音のすべてを表わしていると言える。什分の一をおさめることはまことの礼拝であり，神の主権を認めることである。神のみわざに心身をささげる人の生活は，愛と奉仕に満たされる。キリストは人々をそのような生活に導くために，この世に来られたのである。什分の一のおきては信仰のものさしである。人は，什分の一のおきてをどのように守るかで，自分の信仰と神への愛の強さを知ることがでる。予言者は『什分の一を主に捧げるべく神聖なものとせよ』と言っている。イスラエルの民である兄弟，姉妹たちよ，什分の一を主のみわざのために喜び進んで心からささげるならば，それはあなたがたにとって神聖なものとなるに違いない。」

『み

しばらく前，私とパッカー姉妹はニューハンプシャー州の婦人連合会の会議に出席しました。そこで「若者に焦点をあてて――宗教」というテーマで開かれていた数日間にわたる会議をとじるにあたり，指導者たちの前で話す機会がありました。教会員のバスウェル姉妹は，その会のプログラム中最後の曲を独唱するように頼まれました。彼女はよく訓練されたアルトの声で，どんなにむずかしい曲をも容易にこなすのです。教会の会員であることが紹介されると，彼女はみんなの前に立って言いました。「私たちの教会の子供たちは，みんな歌が大好きなのです。子供だけでなく，大人にも愛されている歌を何曲かお聞きください。」それから彼女は敬虔に，子供に愛されている歌を一曲歌いました。

その美しい歌声は会場いっぱいに響き渡り，そこにいたすべての人々は心暖まる思いにひたりました。それは霊的な経験でした。

彼女は他の曲を選ぶこともできたのです。特に，彼女の持つ美声と才能をそこに出席した人々に知ってもらい，賞賛を得られるような曲を選ぶこともできたのです。音楽の指導者はあまりにもしばしば「質の向上」の必要性を感じたり，福音の精神にのっとることなく，ただ単に自分の才能を知ってもらいたいという理由でこの世的なあるいは宗教的な曲を選んで，礼拝行事の中に「教養」をとり入れる責任があると思っています。そのような音楽は人々の注意をひくでしょうが，私たちの礼拝の中にあってはそうではありません。

私を音楽に関してあまり知らないと言われる方があるかもしれません。それは認めます。しかし，私はいつ主のみたまが宿るかを確かに知っています。主のみたまは，ただ単に美しく威厳のある音楽に奮い立つこともなければ，いかに理路整然としていようともこの世的な話に喚起されることもないのです。

あの子供の讃美歌を歌ったときのバスウェル姉妹の質素さと敬虔さは，何か霊的なものを感じさせました。彼女はもう一曲子供の讃美歌を歌い，そのあと「高きに栄えて」（讃美歌140番）の最後の節を歌い終るか終らないうちに，闘志にもえたように彼女の好きな「シオンの若者真理を守り」（讃美歌150番）を歌ったのです。

一般に若者は，ひるむことも逃げることもしないはずです。しかし私はひるみ，逃げていく若者を見てきました。

鉄の棒に従って目的の地まで行った人々を待ち受ける大きな試練についてリーハイの見た示現は，しばしば見過しにされがちです。ニーファイの次の言葉によく耳を傾けてください。

「……私は一本の鉄の棒を見たが

たま』は雄弁に語る*

十二使徒評議員
ボイド・K・パッカー長老

それは川の岸に沿ってずっと延び，私の立っているそばの木の所まできていた。……私の目にはここに数知れぬほど群がっている人々が見え，その中の多くは私が立っているそばの木の所へ通じている道にとりつこうとして押し進んでいた。……私はまた押し進んでくるほかの人たちを見たが，この人たちは進み進んであの鉄の棒の端にとりつき，鉄の棒にしっかりとりついて暗黒の霧の中を通って一生けんめいに押し進み，ついにやってきてあの木の実をとって食べた。そして木の実をとって食べてから，心に恥じたもののようにあちこちを見まわした。それで，私もまたあたりを見まわすと，川の流れの向う側に１つの大きな広々とした建物が見え，……その中には年よりや若者や男や女の人が一ぱい居たが，この人たちの着物の装いは非常に美しくみごとであって，あの木のところまでやってきてその実を食べていた者たちを指さしてあざける風の態度であった。そこでその実を食べた者は，食べてからあの人たちにあざけりを笑われたので心に恥しく思い，禁制の道に踏み迷って姿を消してしまった。」（Ｉニーファイ８：19，21，24～28）

彼らが鉄の棒に従って行ったあとでまたその実を食べたあとで試しが与えられたことに注意してください。（これらの象徴については，ニーファイ第Ｉ書11章で解き明かされている）

その試しとは何でしょうか。彼らはなぜひるんでしまったのでしょうか。それは人々にあざけられ，指さされて恥ずかしい思いをいだいたためです。

人はどのようにすれば，確固たる態度でいることができるでしょうか。

まず第一に，チャレンジが与えられたときには，それが個人個人に対するチャレンジであるということをよく知ることです。シオンの若者はひるまずとも，あなたはそうなるかもしれないのです。

あなたがたの多くは，たとえ近代のジョンストン軍隊[1]が教会の存在をおびやかそうとも，自分は信仰の守り手としてエコーキャニオン[2]にいるんだというようなあやまった考え方をしています。あなたがたは，チャレンジというものが教会に反対する一軍隊としてではなく，あなた個人の証をおびやかす悪魔の形をしてやってくることを理解していないのです。

博士号の課程研究も終り近くになったころ，私は他の三人と一緒に哲学のクラスに入りました。私ともう一人は博士号を修めるためでしたが，他の二人は大学院で研究を始めたばかりでした。

私ともう一人の博士号志望者との間に問題が生じたのです。教授はどちらの側にもつかず，巧みにその論争を押えていました。論争がさらに激しくなると，他の二人もそれぞれの側につきどちらの側も「援助者」を得て，論争者は二人ずつになりました。その問題がますます重要性を増してくると，私は毎日みじめな気持ちで教室を出ました。なぜそんな気持ちになったのでしょうか。それは彼が間違っていて自分が正しいと知っており，彼もまたそう考えていると思ったからでした。それでも私は討論で彼に勝つことはできませんでした。毎日，私は自分がますます不完全な愚か者に思えてきて，降参しようという気持ちにさえなってきました。

そうしているとき，私はこれまで教育を受けてきたうちで最も重要な経験をしたのです。ある日，教室を出ようとしていると，彼の「援助者」がこのように言ったのです。「あなたは負けていますね。」

この明らかな事実に抵抗するだけのプライドもなく，私は答えました。「ああ負けているよ。」

「どうしてかわかりますか。」と彼は尋ねました。

私は興味がわいてきて，こう答えました。「いや，おしえてくれ。知りたいんだ。」

「問題は，あなたの話は筋道が通っていないということなんです。」と彼は言いました。

私はそれがどういう意味かを彼に尋ねました。私は理解できず，彼もそれを説明することはできませんでした。

彼はただ「話の筋道が通っていない」と言うのでした。

その晩，私はずっとそのことについて考えてみました。それは点数や単位の問題ではなく，それ以上に大きな問題でした。私は討論で負かされたことで，自分で正しいと思った原則を弁護するのが恥しいと思ったのです。「話の筋道が通っていない」という彼の言葉は私の心から離れませんでした。そこで私は謙遜な気持ちで主のみ前に祈ったのです。そして私は知ったのです。

翌日，私たちは再びクラスに戻りました。今度こそは筋道の通った討論をしようと決心して……。再び論争が始まったとき，私はいかにも哲学用語に精通し，知識があることを知ってもらいたいかのように，誇張された不自然な哲学用語を口にするかわりに，すなわち「何か外的な要因により明らかにされるような形で，直感的な知恵を得ること」と言うかわりに，私は筋道が通るように「神よりの啓示」と言ったのです。

突然形勢は一変しました。私は打ち負かされずにすんだのです。また，すぐあきらめてはならないという教訓を学んだのです。私はその謙遜な学生に感謝しています。彼の言葉から，私は多くのことを学びました。

学生のみなさん，学び，探究し，成長してください。高い学位をめざして進んでください。そして自分の選んだ分野において卓越した人物となってください。あなたの宗教的信念を，分別なく他の人々に押しつける必要はありません。しかし，教会や福音について討論するときには，決して筋道をはずしてはなりません。

確かに，すべての人を説得してあなたの考え方を受け入れさせることはできないでしょう。どんな時に説得すべきでないかをわきまえることができるよう，賢明でありなさい。しかし，彼らが受け入れようと受け入れまいと，その考えを知ってもらうためにはっきり教えることはできるはずです。信仰と悔い改め，バプテスマについて教えなさい。

大学には，資格条件となる数多くの教育課程があります。たとえば，最初に基礎コースをとらないで高等化学のクラスに登録することはできません。大学院での教育を受けるには，まず大学での課程を修了しなくてはならないのです。

何の資格条件もなく，それに相当する訓練も受けずにはじめから高等課程をとってごらんなさい。必ずや失敗に終ることでしょう。一つの分野の根本原則を知らなければ，その分野の基礎的な原則に関する真の原理は誤解され，あるいはまったく受け入れられずにおわってしまうかもしれません。

福音にも，いくつかの資格条件となる課程があります。それなくしては，福音の原則のより深い意味を理解することはできません。事実，まったく誤解してしまうようなこともあるのです。

たとえば，神権を受けるためのいろいろな条件は，信仰，悔い改め，バプテスマ，聖霊の授与という課程を経た人でなければほとんど受け入れ，理解することはできません。

たとえ勤勉な善意ある人々があなたの考えに同意しないからといって，決して福音を恥じてはなりません。彼らの言葉で，彼らの筋道に合わせて説明することができないからといってひるんではなりません。

みんなの信頼や人気が得られなくなっても，あくまでも反対の立場に立たなければならないときがあるのです。だれにも相手にされなくなるときもあるのです。

しかしそのようなチャレンジは目新しいことではありません。モロナイ自身も，真理をうまくのべ伝えることができないために，自分の弱点を嘆きました。

「そこで私は主に答えて，主よ，…おそらく異邦人は私たちの書きしるす言葉をあざけるであろう，と言った。すると主は私に告げて『愚なる者はあざける，されど後になりて悲しむ。われが謙遜なる者に授くる恵みは充分なれば，かれらは汝らの弱点に乗ずることなし，もし人われに来らば，われはかれにその弱点を認めさせん。見よ，われは人を謙遜にするために人に弱点を与うれど，すべてわが前にへりくだる者には充分わが恵みを授くるによりかれらがわが前にへりくだりわれを信ずる時にはその弱きを強きに変えん。われは異邦人にその弱点を認めさせ，信仰と希望と愛との三つが人をすべての義の源なるわれに導くものなることを教え示さん』と仰せになった。」（イテル12：23，25〜28）

教会は，バスウェル姉妹のような人々を必要としています。そのような人々は，自分の言葉ではこの世の人々に対応することができないからというのではなく，「すべて信じる者に救いを得させる神の力である福音を恥としない」（ロマ１：16参照）ために，適切な時に福音にそうように霊感を受けているのです。

*1966年４月12日，ブリガム・ヤング大学で講演された「シオンの若者はひるむであろうか」よりの抜粋。

１．ジョンストン軍隊
1858年，米国のブキャナン大統領の命により，モルモン教徒に対して組織された軍隊。（アメリカ歴史百科辞典第９巻，P.544）

２．エコーキャニオン
ソルトレーク市の北東部にあり，当時守備隊の本拠地があった。（アメリカ歴史百科辞典第16巻，P.182英文）

たかが教師じゃないか

十二使徒評議員
トーマス・S・モンソン

——末日聖徒イエス・キリスト教会第140回年次総大会説教——

しばしば私たちは「時代が変わった」という言葉を聞く。おそらくその通りであろう。現代はちょっとあげただけでも，医学，運輸，通信，探検の分野で非常な進歩が見受けられる。しかし，その変化の多い中にも全く変わらないものもある。たとえば，少年は依然として少年であり，同じように少年らしい誇りを持ち続けているのである。

ある時，私はよく言われる会話を立ち聞きした。3人の小さな子供たちが自分たちの父親の良い点を話し合っていたのである。一人が言った。

「僕のお父さんは君のお父さんより大きいよ。」すると，もう一人が「だけど僕のお父さんは君のお父さんより頭がいいよ。」と答えた。そこで3人目の少年が言い返した。「僕のお父さんは医者さ。」それから一人の少年の方を向いてばかにしたように言った。「君のお父さんはたかが教師じゃないか」。

母親の呼び声でその会話は終りになった。しかしその言葉は私の耳の中でこだまし続けた。たかが教師じゃないか。たかが教師じゃないか。たかが教師じゃないか。いつか，その幼い子供たちは霊感あふるる教師の本当の価値を認めるようになり，このような教師が彼らの人生に残す忘れ難い印象を心から感謝するであろう。

ヘンリー・ブルック・アダムス[1]が述べているように，「教師の与える影響は消えることがない。そしてその影響はとどまる所を知らない。」これは私たちの教師，すなわち家庭での教師，第2に学校の教師，第3に教会の教師すべてにあてはまる真理である。

最もよく私たちの印象に残っている教師は私たちに最も大きな影響を与えた教師であろう。その教師は黒板を使わなかったかも知れないし，学位を持っていなかったかも知れない。だが，その教師はいつまでも絶えることなく，教えを心から教えていた。然り，それは母親である。同時に，それはまた父親でもある。事実，すべての親は教師なのである。

神からこのような教師に授けられた生徒すなわち私たちの家庭に来る赤ん坊は，神御自身の家庭から地上に新たに降りてきた人類のかわいらしく新しい花である。

最初の教育の時間は一瞬の間である。機会は失いやすいものである。教師としての責任をなかなか果たさない親は，しばしば言われる「教えていたら」という言葉を苦々しく経験するであろう。

神より与えられた教育のつとめを始めるにあたり，親は一

層の霊感を必要とするのである。世にあって最もすばらしい諸々の感情は，広大な宇宙あるいは小説や本の中から引き出されるものではなく，子供の寝顔を見つめる親の表情の中にこそ見られる。「神のかたちに創造し」という聖書の一節は親がこの経験を繰返すたびに，新しくかつ生き生きとした意味を持つのである。家庭は天国といわれる安息の場所となり愛ある両親はその子供たちに「祈ることと，主の前に正しく歩むことと」を教えるのである。(教義と聖約 68：28) このように霊感された親は決して「たかが教師じゃないか」という言葉には当てはまらないのである。

次に，学校の教師について考えよう。家庭教育の一部を学校の授業にまかせる時が必ずやってくる。ジョニーとナンシーは，毎日家から学校へ通う楽しそうな子供たちの中に加わる。そこには新しい世界がある。そして子供たちは教師に会う。

教師たちは生徒に将来の希望を抱かせるだけでなく，将来への心構えと彼ら自身とに影響を及ぼしているのである。もし教師が未熟であれば，子供の人生に傷を残し，自尊心を非常に傷つけ，他人に対する自分の見方をゆがめるのである。しかし，もし教師が生徒を愛し，その期待を裏切らなければ子供たちの自信は増し，才能は延び，将来は保証されるであろう。

よい生活への橋渡しをすることよりも，信仰を失わせることの方を好む教師がいることは不幸なことである。私たちの導く力は誤り導く力にもなり，誤り導く力は破壊の力にもなるということを忘れてはならない。

J・ルーベン・クラーク・Jr副管長は次のように言われた。「最終的な真理を疑う者，あるいはその信仰を破壊する者は，傷つき，不具者のようになり，また無力になってしまうのである。神はそのような者を厳しく責めたもう。ほかの人が日の栄光に進むのを，故意にさえぎる者，この人の落ちる深みは，その深さをだれが測れようか。」(不死不滅と永遠の生命，第2巻，P.143—144)

私たちはクラスを管理できない時でも，少なくとも生徒を備えさせることはできるのである。皆さんは「どうして」と問うであろう。「神の日の栄の王国への指導を与え，神の真理と人間の理論を区別するバロメーターを与えなさい。」

私は数年前そのような指導書を手にした。それは私たちが普通合本と呼んでいる，モルモン経，教義と聖約，高価なる真珠を一冊にした聖典であった。その本は愛する父親からよく忠告に従った美しい娘への贈り物であった。その父親は見返しのページにこのようなすばらしい言葉を書いた。

「1944年4月9日

マウリーンへ

あなたは真理と人の哲学の誤りを見分ける方法をいつももち，知識を増して霊的に成長していますね。私はあなたにこの聖典を贈りますので，折あるごとに読み，生涯大切にして下さい。

愛する父親

ハロルド・B・リー」

「たかが教師」と言えるだろうか。

最後に，私たちがいつも日曜日に接する教会の教師について考えよう。このような場で，過去の歴史，現在の望み，未来の約束がすべて教えられる。特にここでは，教師はパリサイ人になりやすく，弟子になるのは難しいことを知るであろう。生徒は教師が何をどのように教えるかでなく，どのように生きているかを見るのである。

使徒パウロはローマ人へ勧告した。

「なぜ，人を教えて自分を教えないのか。盗むなと人に説いて，自らは盗むのか。姦淫するなと言って，自らは姦淫するのか。」(ロマ2：21—22)

パウロは霊感に満ちた，力強い教師であり，私たちのよい模範である。捕われていた暗い獄でのパウロの行ないから，成功の秘訣がうかがわれる。パウロは兵卒の足音と彼がつながれていた鎖の音を知った。パウロに好意を寄せていたと思われる獄の番人は，皇帝の前に行く方法に関して何か聞きたいことがあるかどうか彼に尋ねた。するとパウロは自分に導き手，すなわち聖霊がいると語ったのである。

この同じ聖霊はパウロがアレオパゴスの評議所に立った時も彼を導いた。それは次のように述べられている。「あなたがたが知らずに拝んでいるものを，いま知らせてあげよう。この世界と，その中にある万物とを造った神は，……手で造った宮などにはお住みにならない。……神は，すべての人々に命と息と万物とを与え，……われわれは神のうちに生き，動き，存在している……。……われわれも，確かにその子孫である。」(使徒17：23—24，25，28)

もう一度尋ねよう。「たかが教師か。」

家庭にあって，学校や神の宮にあって，すべての人々の人生に影響を及ぼしている一人の教師がいる。その教師は生と死，人のなすべき義務と運命について教えた。またその人は仕えられるためでなく，仕えるために，受けるためでなく，与えるために，自分の命を救うためでなく，ほかの人のため命を捧げるために生きたのである。その教師は色欲よりももっと美しい愛について，また宝よりも貧しさについて述べた。この教師は律法学者たちのようにではなく，権威ある者のように教えたと言われている。(マタイ7：29参照) 今日の世では，多くの人々が金と名誉を求め，「現われては消えてゆく」哲学により支配されているが，この教師は決して，風が吹けば永久に消えてしまうような砂の上にはものを書かなかったことを覚えておこう。その律法は石の上に刻まれたのではなく，人の心に刻まれたのであった。私が話しているこの教師とは，全人類の救い主であり贖い主である，神の御

子イエス・キリストである。

献身的な教師は「われに就きて学べ」という主の招きに応じて学ぶのである。また彼らは主の聖なる力を授かるのである。私は幼い頃このような教師に教えられたことがある。私たちは日曜学校のクラスで教師から，地球の創造とアダムの堕落，イエスの贖いの犠牲について学んだ。彼女はモーセやヨシュア，ペテロ，トマス，パウロ，イエス・キリストを主賓としてクラスに迎えた。私たちはその人々に会わなかったが，彼らを愛し，敬うことを学び，また彼らのようになろうと思ったものである。

ある日曜日の朝，彼女は級友の母親の死を悲しげに発表したが，その時ほど感銘を受け，いつまでも忘れられない教えとして残ったことはなかった。私たちはその朝，ビリーのいないのに気付いたが，休んだ理由は知らなかった。その日のレッスンは，「受けるよりは与える方が，さいわいである」（使徒20：35）というテーマであった。レッスンの最中に，彼女は本を閉じ，神の栄光に私たちの目と耳と心を開かせた。彼女は「私たちのクラスのパーティー資金はいくらありましたか」と尋ねた。

憂うつな日であるので，かえって「4ドル75セントです」という元気な返事が返されたものである。

彼女は静かに提案した。「ビリーの家族は悲しみに暮れています。今朝家族の人々を訪問して，皆さんの資金を差し上げたらいかがでしょう。」

私たちは3丁ほど歩いてビリーの家に行き，彼と兄弟たちとビリーの父親とにあいさつしたのを覚えている。特に，彼の母親がいなかったのが心に残っている。また私は，大切なパーティーの資金を入れた白い封筒が教師の手から悲しみに沈んだ父親の手に渡された時の皆の目に光った涙が忘れられない。私たちは教会堂にかけもどった。かつてないほどに私たちの心は軽くなり，喜びに満ち，理解が深まった。神より霊感された教師は少年少女に神の永遠の真理について教えたのである。「受けるよりは与える方が，さいわいである。」

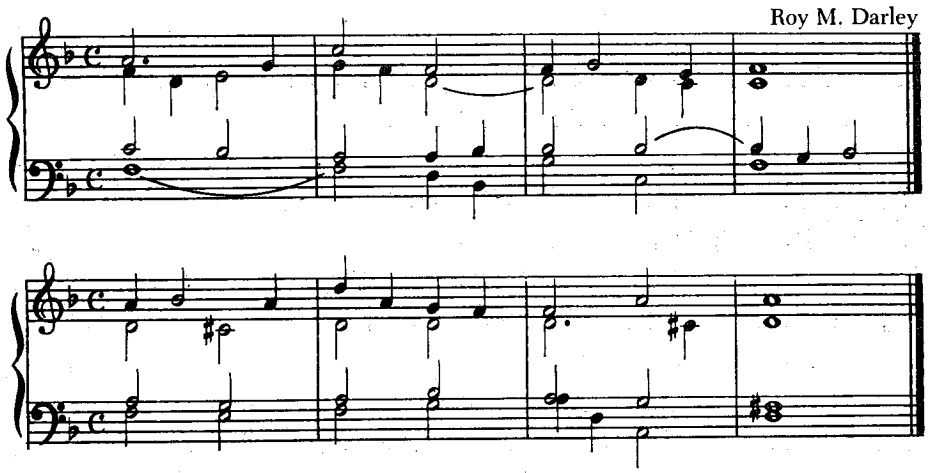
私たちは「聖書を説き明してくださったとき，お互の心が内に燃えたのではないか」（ルカ24：32）という。エマオへ向かう弟子たちの言葉をそのまま引用することができたであろう。

さて，初めの対話にもどろう。「僕のお父さんは君のお父さんより大きいよ」「僕のお父さんは君のお父さんより頭がいいよ」「僕のお父さんは医者さ」というあざけりを聞いてその少年はこのように答えることができたであろう。「君のお父さんは僕のお父さんより大きいかもしれない。君のお父さんは僕のお父さんより頭がいいかもしれない。君のお父さんはパイロットや技師や医者かもしれない。だけど僕のお父さんは，僕のお父さんは教師なんだ。」

私たち一人一人がこのようないつも心に忠実な価値ある心掛けを持てるよう，教師であり，神の御子である，主イエス・キリストの御名によりへり下って祈る。アーメン

1．ヘンリー・ブルック・アダムス，(1838—1918)，アメリカの歴史家

聖餐の聖句伴奏曲



11月の聖餐の聖句

大人日曜学校

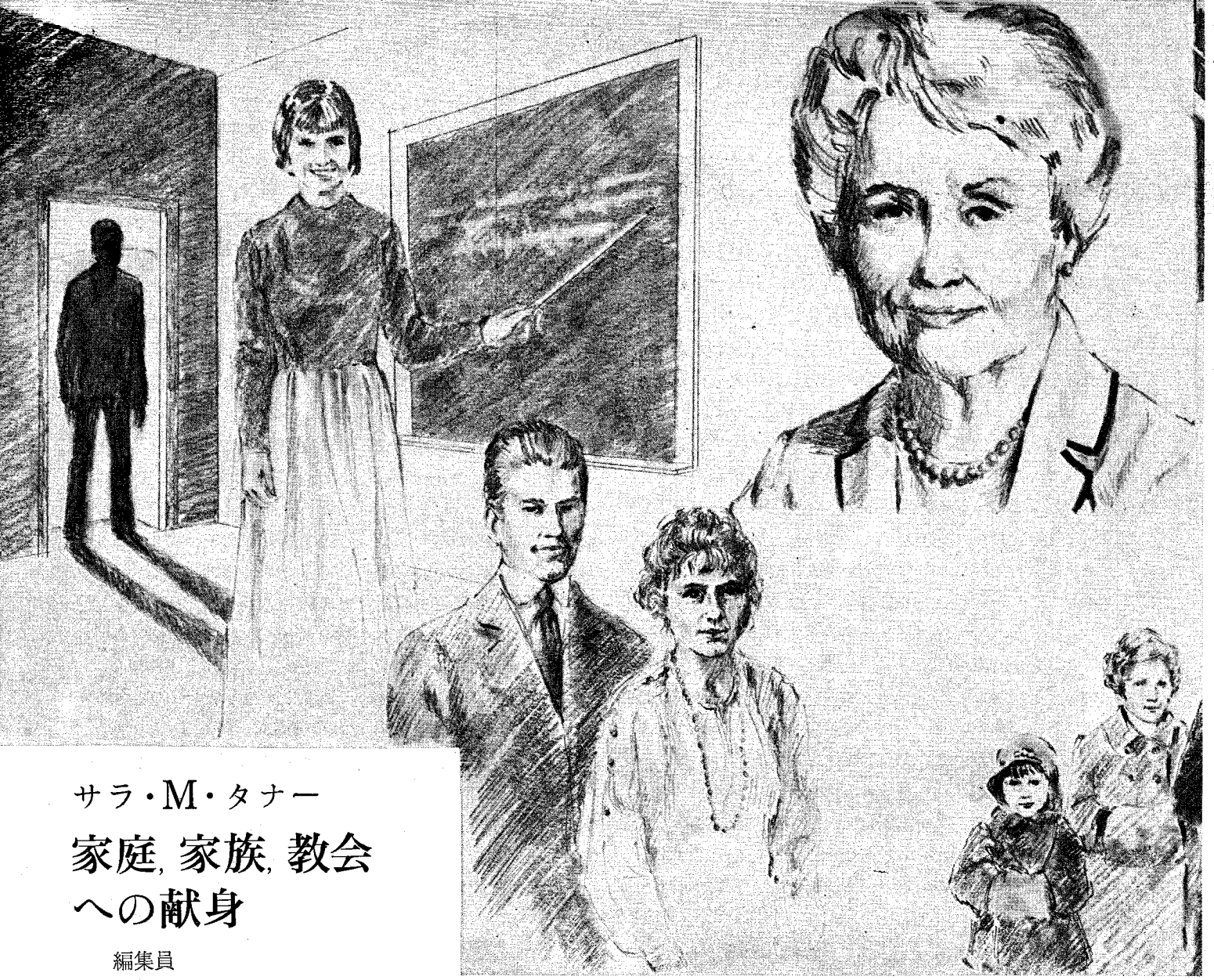
「また真理を知るであろう。そして真理はあなたがたに自由を得させるであろう。」

（ヨハネ8：32）

子供日曜学校

「愛するものたちよ。わたしたちはたがいに愛し合おうではないか。愛は神から出たものなのである。」

（ヨハネ4：7）



サラ・M・タナー

家庭，家族，教会への献身

編集員
エリノア・ノールズ

「彼女は，彼の申し出をうけ入れ自分のたのしみを顧みることなく，女性として妻として，名誉ある役割をひきうけるために立ち上ったのである……。」（リックス大学学長，ジョン・L・クラーク）

カナダのアルバータ州，ヒル・スプリングにある小さな高等学校で，その若い一人の教師は初めて教鞭をとった。彼女は，この二，三ケ月の間に自分の生活全体が変ってしまい，後にあらゆる民族，主義の人々と会見するようになろうとは，夢にも思ってはいなかったのであった。

サラ・イザベル・メリルは，生後23ケ月をのぞいて，ずっとカナダの地に住んでいた。（彼女はユタ州のリーハイで生れた）彼女の父親は，カナダ政府のかんがい事業で働く末日聖徒の住宅建設に携わっていた。サラは，マグラスとヒル・スプリングで教育を受け，カルガリ市にある師範学校を卒業した。ヒル・スプリングの高等学校でサラは背が高くてハンサムな，教師であり校長であるエルドン・タナーに会った。二人は恋をして1919年の12月，雪のふる寒い日に結婚した。（二人の結婚は後に，1923年8月に献堂されたアルバータ神殿で永遠に結び固められた。）

結婚して，サラ・タナーは家庭を離れて，全時間を外で働くのはやめようと思った。彼女は家庭の仕事に専念し教会，社会，政府，会社での多岐にわたる夫の仕事を助けることにその力を尽した。結婚後数年間，二人は一生けん命に家庭を築き，やがてタナー兄弟の学業も無事に終った。その間に二人は愛らしい5人の娘に恵まれた。ルツ，イザベル，ゾラ，ベス，そしてヘレンである。（今では子供たちはみな結婚しており，タナー夫妻には26人のお孫さんたちと一人のひ孫がいる。）

最近，アイダホ州のレックスバーグにあるリックス大学では，その年の優秀な女性として，タナー姉妹を選び表彰した。文頭の引用文も含めて，ジョン・L・クラーク学長が彼女におくった以下の讃辞の言葉は，サラ・タナーの家庭と家族への献身をよく言い表わしている。

「若い時から，あなたは理想の女性としての特質をのばしてきました。芸術や文学，歴史，音楽，そして演劇などの文化活動をとおして，あなたは人生を豊かなものにしてきました。あなたはその家庭への興味と価値観と家庭や子供たちへの力強い献身とによって真の母たるものの本質を身をもって示しておられます。」また彼女についてこのようなことが言われている。「彼女は公立の学校や教会の教師として，また多くの補助組織の指導者として神の愛を身をもって実践しました。」

タナー副管長がアルバータ州会議員として，またその後に州内閣閣僚として優れた手腕を発揮した時に，彼の愛する「サリー」はかたわらで彼を助け同時に家庭をよく管理することを忘れず，二人の家庭がうまくいくように見守っていた。夫が仕事でヨーロッパ，西インド，メキシコ，カナダのすべての地方，そして世界中の他のいろいろな場所に行くときには，事情の許すかぎり彼女は夫についていった。このような日々の冒険に満ちた経験の一つに英国のエリザベス女王と国王ジョージ四世の晩餐会に招かれたことがある。また女王エリザベス二世，フイリップ侯をはじめ多くの著名な人々に招待されたのであった。

どこにいても，タナー姉妹は教会で活発に働いた。サラが若いときに教師として訓練をうけ経験したことが，プライマリーや日曜学校，ＹＷＭＩＡ，扶助協会などの教師の責任をとおして大いに発揮されている。彼女はまたワード部のＹＷＭＩＡや扶助協会の会長として，ステーキ部補助組織の副会長として働き，その才能をますますみがいている。タナー副管長が西ヨーロッパ伝道部長であられた時，タナー姉妹はＹＷＭＩＡ中央管理会のヨーロッパ地区特別代表として任命された。（そのような職務についたのはＹＷＭＩＡ歴史上タナー姉妹が初めてであった。）1964年タナー姉妹とタナー副管長は，共にゴールデングリーナーとマスターＭメンの名誉賞を受けた。

タナー副管長が1960年に十二使徒評議員会補助として教会に全時間を捧げて働くよう召された時，これは二人が

愛する家族と，なつかしいカナダの家を離れることを意味していた。（娘たちは全員カナダに家庭を築いていたからである）しかし二人は大管長からの召しにいさぎよく応えて，新しい家庭を築くべくソルトレーク市に引越してきたのであった。現在，二人は山に囲まれたソルトレークの谷を一望のもとに見晴す広々としたアパートに住んでいる。タナー副管長とタナー姉妹は1969年の12月で50回目の結婚記念日を迎え，38人の家族と共にハワイに旅行し，すばらしい２週間をすごした。

「約２年前，夫が私にどのようにして金婚式をお祝いしたいかとたずねました」彼女は思い出を語った。「結婚の披露宴をしなかったので，夫はたぶん今，それをしたらどうだろうかと思っているようでした。私は夫にききました。『私が本当にしたいことがおわかりになる？　私は家族そろってハワイに行きたいのです。』夫はすぐにその計画をたてはじめ，そして12月の17日に私たち家族はシアトルで落ち合いハワイへ飛んだのです。」

ハワイのチャーチ・カレッジはクリスマスの休暇中だったので，タナー家は大学の学生寮に宿泊し，その食堂を使い，たくさんのレクリエーション設備を使って楽しんだ。二人の結婚記念日，12月20日には，みんなでポリネシア文化センターのショーを楽しんだのである。

「この旅行は，想像していた以上の本当にすばらしいものでした。」と姉妹はいっている。

リックス大学の引用文の中の「本当に豊かな女性らしさ」また「夫に与える霊感」などの言葉は注目に値する。タナー姉妹は自分の生涯に最も強く影響を与えたものは，祈りの力に対する確信であると述べている。「私は若い時に祈りに対して証を得ました。私は祖母が母親につれられて，森の中を散歩しながら，祈るときにはいつも確信を持ち，祈ったことが本当になると信じなさいという教えを受けた時の話を今でもはっきりと思い出すことができます。」サラ・タナーは多くのことに興味を持っているが，夫と家族への献身をまず第一に考える。「現在大管長会の第二副管長の妻であることが私にとって教会の唯一の責任です。また，私は夫にとって最高の妻になるようにねがっています。」と彼女は誇りを持って言う。

サラ・メリル・タナーは本当に女性として妻としての役目をその身にひきうけ，その責任を立派に果たしている。

救いと家族

七十人最高評議員
ブルース・R・マッコンキー長老

――末日聖徒イエス・キリスト教会第140回年次総大会説教――

救いは家族にかかわる事柄である。

私たちは皆，永遠の父なる神の家族である。すなわち私たちは神の霊の子である。私たちはこの世のもといが置かれる前に家族として天父と共に住んでいた。

すばらしい真理を歌った讃美歌に次のようなものがある。

「み親は一人か
深く思えば
永遠の真理は告ぐ
天に母ありと
この身を横たえ
世を去るときに
父母と高きにて
われは会えるや
仰せのみわざみな
成しとげしとき
受入れみそばに
住まわせたまえ
――讃美歌　第140番

私たちがまだ神の御前に住んでいた時に，高きに住まう永遠の御父は私たちが進歩し，御父のようになれるよう救いの計画を定められた。

この福音の計画によりすべての神の子供たちは，この世の試しの期間を過ごす特権と永遠の生命を得る望みとを与えられた。私たちは皆，キリストの贖いにより不死不滅によみがえり，もし福音の律法と儀式に従うならば，永遠の生命を得ると約束された。

永遠の生命とは，永遠の父なる神が過ごしておられる状態につけられた名である。永遠の生命は神の生命であり神の生命は永遠の生命である。もし，

私たちが永遠の生命を得られるとすれば，それは私たちの進歩によるのであって，神のようになることである。

もし私たちが永遠の御父のようになるとすれば，明らかに私たちは御父のように不死不滅にならねばならない。また，私たちは御父の特質と完全さ，属性を得，御父が享受しておられる力と栄光，支配を得なければならない。また天父の永遠の家族を象って私たちの永遠の家族を造らねばならないのである。

神がこの神権時代に回復された福音は永遠の生命の福音である。そしてこれは，すべての神権時代の予言者，聖徒たちに与えられた救いと同じ体系である。またこれは，天父が完全であられるように私たちも完全になり，自分たちの永遠の家族を造って完全にし，永続させるための律法と権能から成っている。

父なる神の偉大な御業は創造であった。神は私たちに命を与えられ，私たちは天父の家族に加えられた。また神の力により地球とその上にある万物が造られた。そして神はその業を完全に果たされた。

キリストの偉大な御業は贖いであった。キリストの贖いの犠牲により，すべての人は不死不滅によみがえり，完全な福音の律法をすべて信じて従う人々は永遠の生命を得る。こうしてキリストはその御業を完全に果たされた。

人がなし得る偉大な業は福音を信じ，戒めを守り，永遠の家族を造って完成の域に到達させることである。こうして末日聖徒はできる限りその業を完全に果たそうと努めているのである。

私たちが教会で得るすべてのことは日の栄の結婚に集約されるのである。すなわち，昇栄は家族にかかわる事柄である。

この世に誕生した瞬間から神殿で結婚する時まで，福音はこの世でも次の世でも夫や妻でいられるよう聖なる結婚制度に入る備えをし，資格を得るためにある。

その時から，地上で結び，それを永遠に天でも結び固める聖なる神権の権威と権能により，私たちは共に結ばれるのである。明らかにされた教えに関するすべてのことは，私たちに結婚誓約の条件を守る助けとして計画されている。そしてそれによって，この誓約は来世でもその力と効力を失わない。

日の栄の結婚は福音の最高の儀式，すなわち主の宮居における最高の儀式である。このように家族は今も永世にも最も大切な集まりである。

従って私たちはこの世のいかなるものよりも，家族にもっと深い関心を寄せるべきである。

すべての重大な決定は，それが家族に及ぼす影響を考慮して下すべきである。男女交際，学校教育，友人の選択，職業，趣味，居住地，社会生活，加入する組織，人々への奉仕，とりわけ私たちに示された真理の標準に従うか否か，これらすべては家族に及ぼす影響を考慮して決めなければならない。

イエス・キリストの福音に教えられているような家族を造り，完全の域に到達させることがこの世で最も大切なことである。

夫たる者に対し，主は次のように言っておられる。「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなかれ。」（教義と聖約42：22）

主は夫と同様に妻にとっても同じ義務を負わせておられる。

夫にも妻にも主は戒めておられる。「汝姦淫を犯すなかれ。また何事にてもこれに類することを為すことなかれ。」（教義と聖約59：6参照）

両親に対して，主は子供たちを光と真理の中で育てて福音を教え，彼らに敬けんな行ないの模範を示すよう命じておられる，

また，主は子供たちに命じておられる。「主にあって両親に従いなさい。」（エペソ6：1）「あなたの父と母を敬え。」（出エジプト20：12）

家族に対して，主は勧告しておられる。「互いに愛し，支持し，助け合いなさい。」

「全き福音の律法に従い，戒めを守りなさい。」

「家族一人一人の生活を完全にし，弱い者を強くし，横道へそれている愛する家族を元に戻しなさい。そして，彼らが新たに霊的な力を得るよう努めなさい。」

「福音をまだ受け入れていない親族を探し，彼らをキリストのもとへ来させ，共にキリストのもつ徳を分かち合いなさい。」

「霊界にいる先祖に手を差し伸べ，神殿の儀式により彼らに福音をもたらしなさい。」

また主にあっては，男なしには女はないし，女なしには男はないと記されている。完全な教会の家族にあっては両親なしには子供はないし，子供なしには両親はないとも言えるであろう。

真の福音は家族を中心に置いているまた，全き救いは日の栄光において家族関係が永続することである。永続する家族関係にある人々は永遠の生命を得，永続する家族関係にない人々は永遠の生命を得られないのである。なぜならば，天国はまさに永遠に続く末日聖徒の家族の延長以外の何ものでもないのである。

救いをもたらすその力は非常に偉大であって，地を天国に，人を神に高め得るのである。人が心に抱き得る最も崇高な思いは，家族が永遠に続くこと，すなわち救いは家族にかかわる事柄であるという概念である。

イエス・キリストの御名により。

アーメン

北海道地方部

10月大会開かる

10月24，25日の両日札幌地方部センターにて，地方部大会が開かれました。

今大会のテーマは，「万人のための救いの計画」で，多数の会員がソルトレークへの歴史的な訪問をなした後でもあり，救いの教義，系図等の関心の深い話がなされた。特に，午後からは，短い時間ではあったが証詞会がもたれ，会員の強い証詞が絶え間なく続いた。

今回は，岩見沢，苫小牧，函館等，遠方の伝道所からの参加者の数も増し，これまでにない多くの人が大会に参加した。

また，この地方部大会で

日本東伝道部ＹＭＭＩＡ管理会長
砂　川　国　男

ＹＷＭＩＡ会　長
伊　東　昌　子

日本東伝道部教育委員
潟　沼　誠　二
福　原　俊　明

以上の人々が支持，任命されました。

大会に集った会員たち

小樽支部のコーラス（写真右）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

小樽支部の鍬入れ式

札幌，旭川についで北海道地方部において三番目の新しい教会堂の建設が着工され，旧教会堂の建物を取りはらい，整地の済んだところで，去る十月十日（土），主に祝福された秋晴れの日に，伝道部，地方部の役員と支部の会員多数が参加して，鍬入れ式が無事行われました。

鍬　入　れ　式

鍬入れ式に集った会員たち

ベンソン長老を囲んで記念撮影

奇しき業…350名の

ソルトレーク神殿訪問

1969年10月大会において，ウォルター・R・ビルス日本伝道部長よりアジアからグループとして初めてソルトレーク総大会に出席する許可がおりたとの発表があった。この夢が実現するまでには，何か月もの入念な準備があった。9月30日第一団がソルトレーク市に向けて出発した。

ソルトレーク国際空港に着いた350人の日本人聖徒は決して見知らぬ地へ乗り込んだのではなかった。そこには帰還宣教師たちが待ち受けていたのである。かつては日本の地に福音を携えて来た宣教師たちと再会するというすばらしい光景であった。

ソルトレーク市では，聖徒は神殿に程近いミッションホームに滞在した。10日間の滞在中，多くのスケジュールで聖徒たちは大忙しであった。ホテルユタの皇帝の間が帰還宣教師たちとの再会の間にあてられた。七十人最高評議員のマリオン・D・ハンクス長老夫妻も同席された。

兄弟たちは神権会，姉妹たちは扶助協会特別集会に出席した。特にプロボに住む婦人で，モルモンとしては二人目の「ミセス・アメリカ」に選ばれたジョアン・フィッシャー夫人を迎えてのレセプションが姉妹たちのために催された。

日曜日の夕べにこの旅行中最もすばらしいことが起った。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長夫妻，ハロルド・B・リー副管長夫妻列席のもとに特別聖餐会が開かれたのである。スミス大管長が短い言葉を述べられた後，スミス姉妹は日本語で知っている唯一の歌「チーチーパッパ」を歌われた。

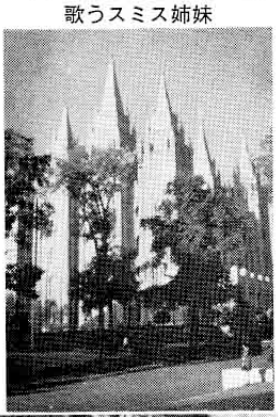
多くの聖徒が自身のエンダウメントを受け，伴侶と今も永世にも結び固められた。また，死者のバプテスマに参加し，特にほとんどの聖徒が祝福師の祝福を受ける機会に浴した。神殿の儀式はソルトレーク滞在期間中，最も霊的に高められたすばらしい経験であった。

神殿訪問後の2日間，名所見物に出かけ，ビンガム銅山，「まさにこの土地なり」の記念碑，ブリガム・ヤング大学を訪れた。そしてソルトレーク在住の聖徒達の家庭に宿泊する機会を得た。

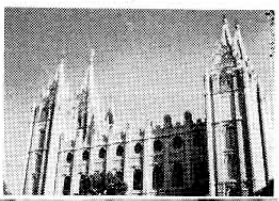
全旅程のクライマックスは証会であった。教会幹部，以前に日本の伝道部長を務めたアドニー・Y・小松，ポール・C・アンドラス，ヒルトン・A・ロバートソン兄弟を迎えて，聖徒たちは証を述べ，ソルトレークに住む聖徒たちへの愛と共に過ごしたすばらしい日々への感謝が表わされたのであった。

聖書の予言の成就を見る思いで，多くの指導者が口々に言っていた。「これぞまさに，奇しき御業である。」

上，ソルトレーク空港に降りたつ，喜びの兄弟姉妹たち
中上，霊感されたヒンクレー長老のお話
中下，「チーチーパッパ」を歌うスミス姉妹



上，聖餐会に出席されたジョセフ・フィールディング・スミス大管長夫妻
中上，中下，タバナクルで総大会に出席する日本の聖徒たち



勢ぞろいした350名以上の日本の聖徒たち（ソルトレーク神殿にて）

≪日本中央伝道部のページ≫

近畿四国，近畿中国地方部アロン神権合宿会

アロン神権者が一致団結するために近畿両地方部にて別々に９月中旬に合宿を行った。

プログラムはスポーツ，討論会，勉強会，そしてリクレエションとしてレスリングや腕相撲等を楽しんだ。特に興味深かったのは全員が銭湯に行ってやせっぽち，太っちょが互に背を流し合う，ほほえましい風景であった。文字通り寝食を共にし裸のつき合いにとても親近感を持ち，良きフェローシップが持てた。

場所〈近畿四国地方部―岡町支部
　　近畿中国地方部―ユースホステル

アロン神権合宿会に集った近畿四国地方部のアロン神権者達（右上）

献立表を前もって作り食事の準備をする。
厳しいチェックをする岡崎姉妹。

ガールズ・プログラム

サーティフィケイションキャンプ

中央伝道部のガールズ・プログラムとして念願のサーティフィケイションキャンプを開いた。今回はキャンピングの四つのレベルのタイトルを持つ岡崎姉妹が10名の伝道部及び地方部の役員を厳しくトレーニングしイヤリング及びマウンティニアの二つのレベルが姉妹によって与えられた。

いよいよ開かれる筆記試験にファイト満々の姉妹達。

野外で食べる色々な串類の焼肉料理方法を教える岡崎姉妹。

先ずは体操〃そしてマムシにかまれた時の治療法や包帯の結び方をトレーニングされる。

モルモン大運動会開かる

10月10日（土）晴天：体育の日：近畿中国，近畿四国両地方部合同で華々しくモルモン大運動会が開れた。小学生から老人まで求道者，宣教師等多数を交じえて日頃のウップンを晴らし大いにフエローシップを楽しんだ。知恵の言葉を守るモルモンは〝走れども疲れず歩けども気を失うことなからん〟の聖句通り，大奮斗して一日を楽しんだ。

＜地方部対抗の棒倒し＞

＜プライマリーのアメ取り競走＞

＜最大の見せ物地方部伝道部対抗リレー＞

＜日本西部伝道部長だより＞

私たちは，主のみ業すべてに深く感謝しております。世界中に，特にこの日本の地に主の導きがあることをはっきり知ることができます。教会も聖徒たちも大きく発展しつつあり，信仰と行ないの面にも，かつてみられなかったような大きな成長が見られます。賢明な目的のために地上に送られてきた選ばれた霊たちの中から，今や多くの人々が呼び起こされています。非常に多くの人々がみたまに触れようと手探りをしています。日本の人々は真理を，霊的な真理を捜し求めているのです。幸福とは，イエス・キリストの福音にのみ見出されるものなのです。現在は，歴史上他のどの時代にもまして，主が特別にとっておかれた時代のように思えてなりません。

私どもの親友であるエライアサン兄弟姉妹から聞いた話を次に述べたいと思います。愛の精神をもって福音をのべ伝えたジェームズ・E・ウォルトン兄弟姉妹の話です。二人は夫婦で宣教師に召されました。次の話から，私たちの生活の中で，愛というものがいかに大切であるかをより深く心にとめられるように願ってやみません。

ウォルトン兄弟姉妹が伝道の召しを受けたのは，彼がちょうどステーキ部の祝福師をしていたときでした。彼はいったん召しを受けたからには，必ずそれをなし遂げようと決心したのです。

ウォルトン兄弟姉妹は人々を愛し，ほんの短い間しか接しなかった人々にもその愛を感じとってもらえるというすばらしい賜に恵まれていました。ウォルトン兄弟は，疑いの心を持たない「異邦人」に腕をまわしてよくこう言いました。「兄弟，主はあなたを愛しておられます。そしてあなたがバプテスマを受けて主のみもとに来るように望んでおられるのです。」

このように言われて人々が最初に思うのは，恐らく「この人はただ私を改宗させようとしているだけなんだ。」ということではないでしょうか。しかしウォルトン兄弟の愛は表面だけのものではありませんでした。それは，真心から出た愛でだれも逆うことのできないものでした。ここに愛の本当の価値があります。この謙遜な心を持ったすばらしい兄弟の愛は本当の愛，すなわち彼の一部であり，決して偽善などと誤解されることのない愛だったのです。

そのような愛によって，75歳のウォルトン兄弟と同僚である姉妹は，はじめの6ケ月間に接した人々のうち52人の人々が教会に加わるのを目にしたのです。

モルモン・パビリオンのガイドの人の心がこのような愛で満ちていたために，一人の人がモルモン経を全部読みました。そしてその人はこの愛の福音をもっと教えてくれる人を見つけるために，4回も大分支部に出かけて行ったのです。

4年も前に愛ある導きを受けた人が，その愛のゆえに教会に再び戻りバプテスマを受けました。

主のみ心を行なうために私たちは兄弟姉妹として一つとなり，みたまの導きを受けなければなりません。みたまを受けるためには私たちの家族に，同胞である兄弟姉妹に，そして非教会員の友人に愛をもって接することを忘れてはなりません。「愛は，天父があらゆる面に用いられた神聖な原則」なのです。みたまを受けるために，私たちはみたまに波長を合わせていなければなりません。主のみたまに波長を合わせておくには，主のみ言葉に従わなくてはならないのです。主は「心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ」，また「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」と言われました。（マタイ22：37，39）私たちは喜びを分け与えることなしに，隣人に福音を伝えることなしに，真心から隣人を愛することができるでしょうか。この大いなる時代にあって，主の目的を助けるにふさわしい者となれるよう，私たちはまずこの愛を，慈愛を，そしてキリストの純粋な愛を養わなければなりません。「それであるから私の愛する兄弟らよ，あなたたちは，神が御子イエス・キリストに真に従う者たちに一人のこらず与えたもうたこの愛で自分たちの胸を満たすためにありたけの心をつくして御父に祈れ。」（モロナイ7：48）

私たちはこのような知識が与えられていることを，また将来のために主が備えたもうておられる機会と祝福を天父に心より感謝しております。

渡辺伝道部長
御夫妻

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九七〇年十一月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十四巻第十一号

行ないより言葉で教えている

リチャード　L. エバンズ

若人と彼らの抱える問題と、一部の若者の放縦な生き方に対して、当然のことながら関心が寄せられている。我々はそれらの問題を生み出した責任が、道徳面、霊的面、物質面における環境をつくり出してそれを可能にし、あるいは許す大人の側にもあることを認めねばならない。人々の行ないと態度、時には両親や教師に、そして製造業者、販売業者、不健全な娯楽を世に提供する人々、律法をあいまいにし、みだらな行ないを広め、道徳律を捨てて人生の確かなしるべを軽べつする人々に責任の一端がある。正直に考えてみる時、若人の持つ困難な問題の多くが、安心して従うことのできる模範を示さなかった大人に端を発していることを認めざるを得ない。若者自身に自分の決定と行ないに対する責任がないわけではない。しかし、より多くを知っているはずの人々が、人生の落とし穴がどこにあるかを教えてやらねばならないのである。我々は行ないで教えるより言葉で教えている。しかも言うべきことを充分告げてはいない。そしてさらに、我々は物質的にはますます多く生み出し、道徳的、霊的に生み出すものはますます少なくなっているのである。実りある活動の機会をせばめ、若者により多くを学ぶ力があり、より多くをなし、より大いなる者となる力があることを忘れて……。もし我々がもっと早く求め、我々の生き方をもって誠実を示すならば、若人は我々の期待に応えることであろう。我々はできる限り早く、この世でなさねばならぬ仕事を彼らに教え、彼らが信頼を受けて立派な奉仕のわざにいどむ姿を我々の目で確めなくてはならない。彼らが自己を形成する時に、我々は、どのようであるべきかを自分の姿をもって示し教えるのである。良くも悪しくも、幸も不幸も、道徳的に清くも不純であるとも、ふさわしかろうとふさわしからざると、我々は彼らがどのように生きるかについて責任の一端を負っているのである。言葉で告げることはよい。しかし、行ないで示すことは更に重要である。

聖徒の道
1970年11月20日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話 (442)7459
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円.
予　約　一年間 1,000円 （外国4ドル50セント）
電報受信略号 「トウキョウ」マツジツ